

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

穂積地区



2025 年 3 月

小山市

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 穂積地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要 …… 1

- 1 目的
- 2 本調査の「風土性調査」としての性格付け
- 3 地域での各種調査
- 4 調査報告 …… 2
- 5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

II 踏査および文献調査による報告 …… 3

- 1 穂積地区の概況
- 2 地域の自然について …… 4
- 3 地域の自然への人の働きかけについて …… 10
- 4 地域と人々の心身の結びつき …… 17
- 5 景観から読みとれるその他のこと …… 19

III 簡易社会調査による報告 …… 29

- 1 目的と実施概要
- 2 結果整理の手法について …… 30
- 3 各調査の結果報告 …… 31
 - 3-1 グループインタビューの記録
 - 3-2 アンケート調査結果（概要と考察） …… 52

参考・引用文献 …… 68

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることになる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えていくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和6年4月1日から7月31日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

穂積地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等はどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。市民の協力を受け、踏査に同行いただいた経路もあった。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 ― 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 ― アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和6年9月18日(水) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市穂積公民館

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 穂積地区の概況

穂積地区の位置、面積、人口と沿革

穂積地区は、明治 22 年（1889）の町村制施行にあたり上国府塚・下国府塚・上石塚・下石塚・萩島・大行寺・石ノ上・塩沢・間中の 9 村が合併した穂積村をもととする。地区の面積 13.00km² は市の面積の約 7.6%、人口 3,873 人は市の人口の約 2.3%を占める。（令和 6 年 4 月 1 日現在。「小山市統計年報 令和 6 年度版」より）。穂積地区は思川低地に立地し、東縁がほぼ思川に、西縁が与良川とその上流側の水路にそれぞれ接している。古代の律令国家は、同じ思川低地の北側、現在の栃木市田村町に下野国府を置いた。穂積地区には、上国府塚と下国府塚の国府名の付く集落が二つあるが、国府が領主交代や水害などの影響から順次移動していた可能性も指摘されている。中世には、藤原秀郷の後裔である小山氏が城館、石塚館や等覚院観音寺などを建てた。近世には、清水坂下から大行寺へ渡る思川の渡船場から佐野道と栃木道が分かれるなど、五街道追分の地といわれた小山宿の対岸にあって交通上重要な役割を果たした。ここ穂積地区でも、微高地が集落と畑地、低平地が水田に利用された。微高地には、かつて桑園もつくられ、間中に養蚕の設えを持つ家屋が多く残る。間中と大行寺には旧堤防も残るなど、さまざまな歴史的要素が地区の景観を少しずつ特徴づけている。

二筋の街道と二ヶ所の渡船場

思川は水運に用いられたが、穂積地区には河岸がなく、渡船場が大行寺と塩沢にあった。小山宿の清水坂下の対岸に当たる大行寺からは、佐野道

と栃木道が分かれた。佐野道は、小山方面から榎本、佐野、足利、上州方面へ抜ける道で、近世後期には太平山への参詣道としてよく用いられた。栃木道は、立木、松沼、卒島を経て例幣使街道の栃木宿に至る道で、栃木への最短距離を結んだ。

近世中期以降、水戸浜（那珂湊、大洗の磯浜）、銚子浦などからの鮮魚の需要が内陸部である佐野、足利、上州へと広がり、現在の小山市域では絹地区の福良と中地区の大川島に荷物を順次継ぎ送る拠点、継立場が置かれた。大行寺と塩沢村の渡船場は、鮮魚の輸送にも用いられた。この他、農耕のために人や馬を渡す用途などもあった。

自然堤防と畑、河原と桑園と養蚕

穂積地区では、旧村が思川沿いにあるか、同川から離れた地区西部の低湿地にあるかによって基本的な土地利用が異なる。思川沿いには、水流に運ばれた土砂がたまってできる微高地、自然堤防が発達し、家屋の他には畑が作られ、農産物の価額構成比に占める大麦、小麦の比率が高かった他、近代に入ると養蚕や蚕種業、木綿織物業が展開していた。思川の川辺に広がる河原は、冠水と著しい乾燥という両極端な状態への頻繁な変化から病虫害の発生が抑えられたことがあって、桑園とされた。『小山市史 通史編 III 近現代』416 頁に載る明治 26 年（1893）から大正元年（1912）にかけての蚕種製造枚数の変遷を見ると、市内第 1 位の生井村で明治 34 年（1901）に大幅に減少し、第 2 位の絹村では明治 41 年（1908）から大正元年にかけて微減しているのに対し、穂積村では明治 26 年から同 31 年（1898）にかけて 2,970 枚減った後、大正元年までに 11,123 枚増えている。

一方、地区西部の低湿地に囲まれた村々では、当初から水田稲作中心の農業が行われてきている。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

蘭田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

出典 | 蘭田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

なお、踏査は以下の日程で実施した。

04月15日(月) 南部(間中・塩沢)

05月10日(金) なつみずたんぼ

06月26日(水) 北西部(萩原・上国府塚・下国府塚・上石塚・本郷)

07月22日(月) 南部(間中・塩沢・石ノ上・荒屋敷・萩島・大行寺)

23日(火) 北部(下国府塚・石ノ上・萩島・下石塚・上石塚・上国府塚)

報告のはじめに

穂積地区は思川低地に位置し、
ほぼ全域が洪水浸水想定区域に当たります。

出典: 小山市 | 小山市洪水・土砂災害ハザードマップについて <https://x.gd/Y6V5F> (2024-08-24 参照)

簡易社会調査では、
水害への不安を示す回答が、
思川低地中・南部の4地区に共通して上位を。
農業の継続、継承の不安についても同様です。

図2 穂積地区を含む思川低地中・南部の4地区に共通する防災上の問題について

土地利用の変化、国内の林業を取り巻く状況、気候変動等の影響から、災害の危険度は増している。

思川低地は、
川が氾濫を繰り返して
できました。
その中で、
後でふれるような
農業技術の発達などの
歴史が、当地で
重ねられてきました。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ
自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、235頁



図3 穂積地区の地形の形成と河川の氾濫の関係について

出典 | 国土地理院 地理院地図 | 治水地形分類図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、235頁

II 踏査および文献調査による報告



図4 市街地の非農家への田園部の農業の貢献について整理する。

参照 | 環境省自然環境局 | 生物多様性と生態系サービス <https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/service.html>

報告のはじめに ※河川低地各地区共通スライド

当地区の農業者は、水害常襲地で様々な困難を抱えながら農業を続けることにより、市街地の非農家に大きな恵みをもたらしてきています。

こうした農業者の自然の恵みの仲介に対する適正な対価が求められます。

参照: 鎌田康人「グリーンインフラとしての水田とEco-DRR」『農村計画学会誌』37(4)、2019年、358-361頁

参照: 吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティブ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998年、5-21頁

図5 穂積地区での農業継続・継承の困難さを確認し、その公益的価値を評価する。

河川低地は稲作等に向くが、水害に遭う危険も付随する。危険の除去・低減と共に、補償が求められる。

地域の自然について



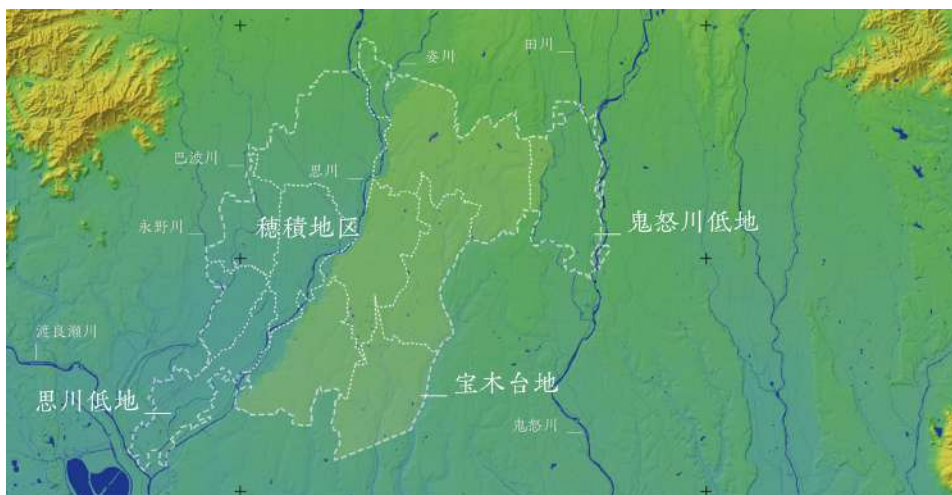
合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

穂積地区は、小山市中部から西寄りに位置し、

図6 小山市の地区区分と穂積地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその中部から西寄りに位置する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

思川低地上に立地していて、
地区の東縁がほぼ思川に、西縁の北側が与良川に
それぞれ接しています。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編1 自然 原稿 - 古沢 中世』小山市、1984年、10頁

図7 小山市と穂積地区の地形。同地区は、思川を挟んで宝木台地に面する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

II 踏査および文献調査による報告

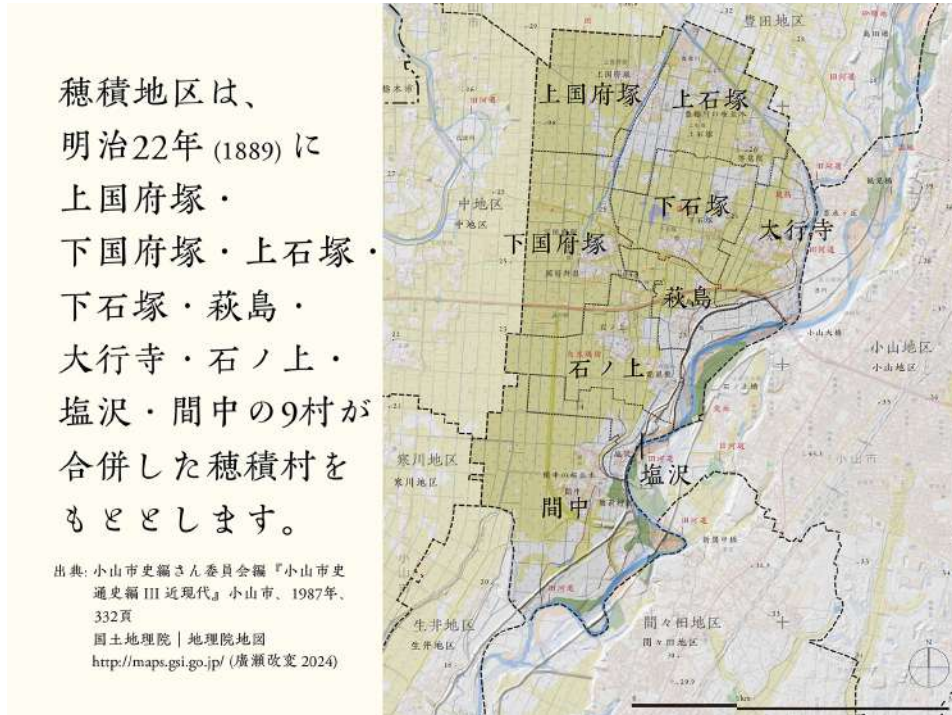


図8 穂積地区の各集落の位置を確認する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、332頁



図9 薄黄色は水田、白色は集落や畑地を表す。「荒地」は、未開墾か耕作されなくなった土地を意味する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 空中写真+陰影起伏図 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

思川低地では、集落がつくられた微高地の他は
湿地でした。それが湿田とされ、乾田とされて今に

図 10 集落と畑地は思川とその旧河道に沿ってできた微高地に、水田は周囲の低湿地につくられた。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、209頁

上記の「国土地理院 地理院地図—明治期の低湿地」は、「第一軍管地方 2 万分 1 迅速測図原図」（明治 13 年~19 年）をもととする。小山市史に、この図から読み取れる内容を記した箇所があり、参考に引き写す。

豊田村・穂積村とも、豊かな水田稲作農業を願ってつけられた村名であるが、豊田・穂積地区の土地利用を、明治十九年の「第一軍管地方迅速図」により示したのが第四六図（市史 159 頁参照・報告者注）である。同地区は、前述の土地構成比でも、水田の割合が五七・六％、五五・二％と、五〇％以上を占めていたが、その点は、同図でも認められる。また、平地林や原野の割合も、同地区は思川以西の地域のなかでは高かったが、そうした平地林や原野（草地）は、思川西岸に沿って広がり、その平地林や原野は燃料や肥料の供給地であった。そして、その川沿いの平地林は、明治初年から桑畑として開発が進められたが、そうした桑畑が思川沿いの平地林内に散在していたことも認められる。また、平地林に続いて畑地があたが、そうした畑地の開発は江戸時代に進んだと思われる。そしてこの地区の中央部に、南北に散在する微高地は、思川水系がこの地区を南流していたころの中州であるが、そうした微高地は、畑と宅地、それにわずかに残された平地林を形成していたことが確認される。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、157-159頁

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

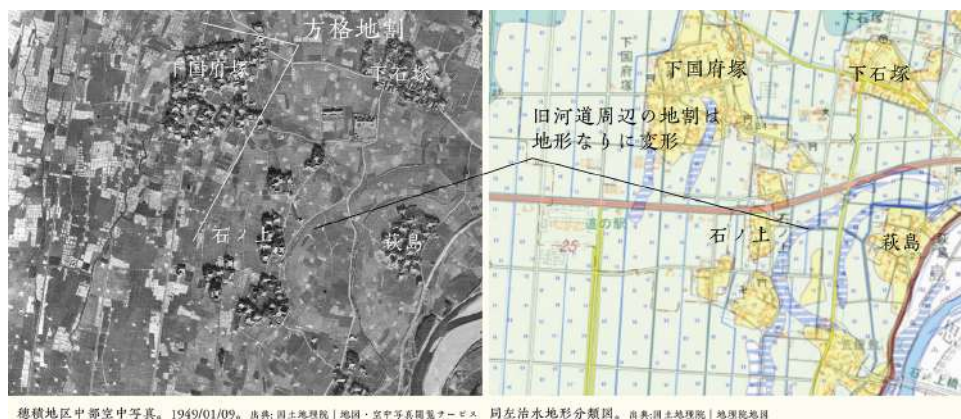
「思川を利用した灌漑地は川の西岸にひろがっている。(中略) 大字小宅から間中にかかる範囲」

「律令時代に入り下野国が設置されると、この地域のすぐ北部 (現栃木市域) に下野国府が設置され (中略) 条理的区画が着手された (後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、355-356頁

図 11 古代の下野国で、条里制に基づく土地の区画は、関東第二の規模で行われた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、355-356 頁



「大字小宅から間中に至る南北約8.5 kmに及ぶ範囲で各所に整然とした方格地割による区画が (中略) 上国府塚・下国府塚・上石塚・下石塚・石の上・間中の旧穂積村には多くの遺構がみられ、南北方向の方位をもつ例が圧倒的に多い」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、356頁。『昭和28年(1953)以降土地区画整理事業が進められたため、古い水田区画はすべて消滅』

図 12 1949 年に撮影された空中写真に見られる「方格地割」は、1953 年以降の圃場整備で消滅した。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、356 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



星宮神社。上国府塚。2024/07/23



国府(こう)神社。下国府塚。同左

「古代においては、政務を執り行う国府は、現在の
栃木市田村町近辺が推定されるが、小山には
『上国府塚』『下国府塚』という国府名の付く
村落が (中略) 国府は、領主交代や洪水などの (中略)
影響も受けて (中略) 順次移動していった可能性も」

出典: 原 宏『小山の歴史』随想舎、2023年、56頁

図 13 上国府塚の星宮神社（写真左）と下国府塚の国府（こう）神社（同右）。

出典 | 原 宏『小山の歴史』随想舎、2023 年、56 頁



等覚院観音寺。上石塚。2024/07/23

「小山氏は (中略) 藤原秀郷の後裔である」。
常陸下総で平将門の乱を鎮めた秀郷に、朱雀天王は
聖観世音像を贈りました。以来、同家では観音像が
敬われ、新たに彫刻された像もありました。
康正元年 (1445) 建築の観音寺に一体が安置されます。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、417頁。山野井光枝 (清水) 「石塚の観音さまについて - 高橋山 等覚院 観音寺」2024年、1-2頁

図 14 等覚院観音寺。上石塚。2024/07/23。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、417 頁
山野井光枝 (清水) 「石塚の観音さまについて - 高橋山 等覚院 観音寺」2024 年、1-2 頁

II 踏査および文献調査による報告



史跡石塚館記念碑。下石塚。2024/07/23

史跡石塚館・星宮神社全景。同左

「戦国時代の小山市の支配領域内には大小さまざまな(中略)城や館が」「祇園・榎本両城を結ぶ道路の北方に(中略)石塚館など」。小山政隆が建武元年(1334)に石塚館を築いた際、前述の観音像を譲られます。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、694-696頁。山野井光枝(清水)「石塚の観音さまについて - 高橋山 等覚院 観音寺」2024年、2頁

図 15 下石塚の史跡石塚館記念碑（写真左）と史跡石塚館・星宮神社全景（同右）。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、694-696頁
山野井光枝(清水)「石塚の観音さまについて - 高橋山 等覚院 観音寺」2024年、2頁

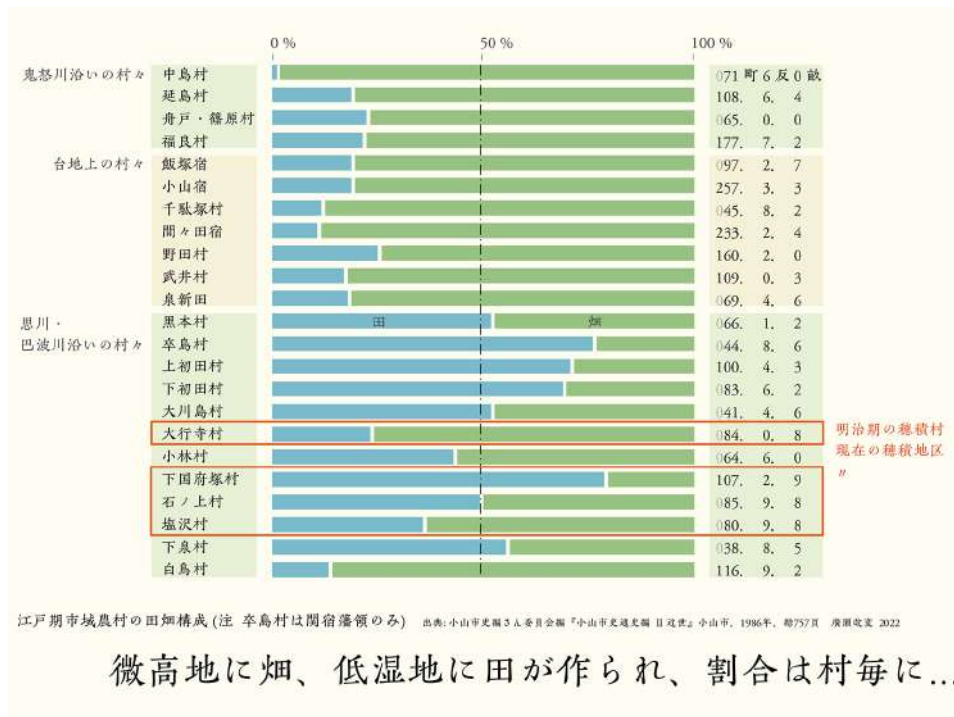


図 16 江戸期市域農村の田畑構成（注 卒島村は関宿藩領のみ）。

思川沿いでは微高地を利用した畑が多く、思川から離れた低湿地では水田稲作中心の農業が営まれた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、総 757 頁（廣瀬改変 2022）

II 踏査および文献調査による報告



農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー | 土壌図 <https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html> (廣瀬改変 2024)

「台地上では播種量は多く、思川・巴波川の平野部では早くから播種量が少なくなったようである。これは両者の自然条件の差が現れたともいえるが、(中略) 大きな差が (中略) そこには稲作技術の差が」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、194-195頁

図 17 土壌図。河川の氾濫により堆積した土砂を主な母材とする低地土の各種が分布する。

出典 | 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー <https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、194-195頁

村名	年代	粳	大麦	小麦
中島	天保09年03月		7,8 升	7,8 升
飯塚	正徳02年07月	1 斗1 升	8 升	8 升
間々田	明和元年09月	1 斗	1 斗	
野田	享保05年08月	7,8-9 升	7,8-9 升	
武井	享保10年09月		8-9 升	
黒本	延享元年09月	6 升	1 斗	
大行寺	元禄08年05月	6 升		
下国府塚	正徳05年08月	8 升	1 斗3 升	1 斗3 升
石ノ上	正徳05年09月	6-7 升		
白鳥	慶応元年08月	6 升	8 升	3 升

田畑播種量 (1反に付)。出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 史料編・近世1』史料3・5・10・11・13・16・22・24・25・28

「一定面積の作付けに必要なとする種子の量」、播種量は「少ないほどよい」。18世紀初頭より、浸種の期間が短縮され、粳は1反あたり1斗5、6升→5、6升到。大行寺・石ノ上村などは技術を早くに。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、194-195頁

図 18 近世の田畑播種量 (1反に付)。大行寺村、石ノ上村では、新しい稲作技術が早期に導入された。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、194-195頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



集落西端から北側、今里の方向を望む。上国府塚。2024/05/10

「10年くらい前から麦の刈り取りが終わった
田んぼで水はけの良いところを選んで、レタス、
ブロッコリーを栽培(二毛作的に)」。
技術的工夫は、農業従事者の方々への
グループインタビューでも注目されました。

出典: 小山市・有限責任事業組合 風景社『『田園環境都市おやま』のまちづくり穂積地区風土性調査報告会 アンケート・グループインタビュー観察報告』2024年、4頁

図 19 今日も、当地での農業の可能性が追求し続けられる。

出典 | 『『田園環境都市おやま』のまちづくり穂積地区風土性調査報告会 アンケート・グループインタビュー概要報告』2024 年、4 頁



石ノ上橋。石ノ上。2021/10/06

「米がおいしいのは土質の良さと豊富な地下水」。
これも農業従事者へのインタビューで。
「思川低地における湧水は、今は地下水が低下した
ため見られないが、かつては豊かであった」。
「石ノ上橋付近では(中略)泥層を流れている地下水が
湧出するため、夏の川の水温はそこで急に低くなり、
冬は逆に高く(中略)水質もよいので、生物の種類も」

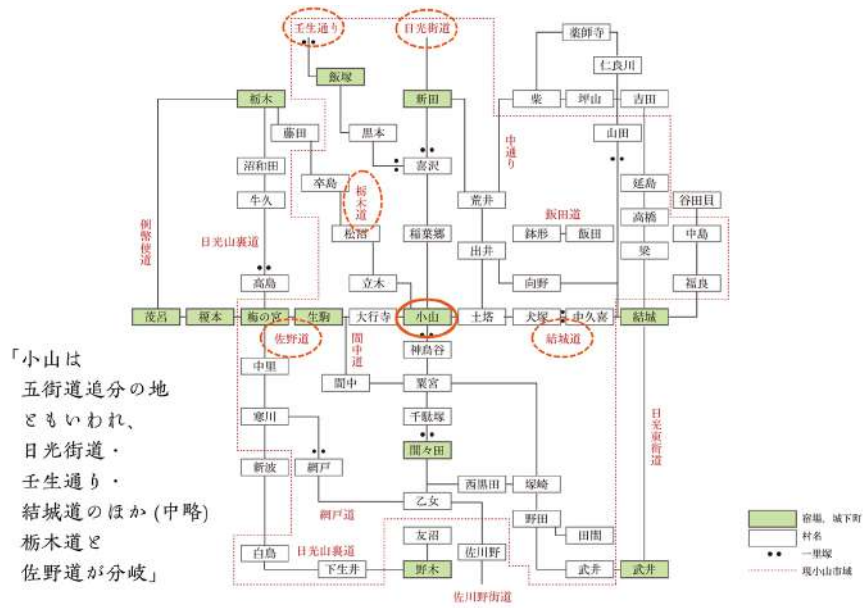
出典: 小山市・有限責任事業組合 風景社『『田園環境都市おやま』のまちづくり穂積地区風土性調査報告会 アンケート・グループインタビュー観察報告』2024年、4頁
「生物の種類も、そこだけ豊かになるという特殊な状態をつくっている」。出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、32、35-36頁

図 20 「豊富な地下水」については引用した河床湧水の外、図 17 の灰色低地土が浅層地下水に関係する。

出典 | 『『田園環境都市おやま』のまちづくり穂積地区風土性調査報告会 アンケート・グループインタビュー概要報告』2024 年、4 頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、32、35-36 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



日光街道(日光道中)と市域の脳道 出典:小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 日道史』小山市,1986年,260-261頁 廣瀬収寛 2022

五街道追分の地を中心に、各地区も重要な役割を。

図 21 日光街道（日光道中）と市域の協道。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986 年、260-261 頁（廣瀬改変 2022）



図 22 大行寺周辺の佐野道。1947 年撮影の空中写真と現在。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)

小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986 年、261、497 頁

II 踏査および文献調査による報告



図 23 前提として「幕府は軍事的な意味から、主要な河川に架橋することをしなかった」。

出典 | 国土地理院 地理院地図 | 治水地形分類図 <http://maps.gsi.go.jp/>

小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、261、487、501頁

図 23 の説明に引用した箇所続く市史の文章を、参考に引き写す。上記引用文は冒頭に当たるため、読みやすいようこれも再掲する。

幕府は軍事的な意味から、主要な河川に架橋することをしなかった。たとえば東海道の六郷・相模・安倍・大井川、中山道の碓氷・烏川、日光街道の利根川などがそうであった。そのため河川は関所とならんで陸上交通の障害となった。

近世における渡河方法は歩渡り（徒渡・歩行越）・網渡し・籠渡しなどのほか、渡船（船渡し）があった。このうち歩渡りは徒歩によるもので、手曳渡し・肩車渡し・蓮台渡しなども含まれる。また、これらは渡船とならんで当時一般的にみられる渡河方法であった。

このうち渡船場は陸上交通と河川交通の交点にあって、交通の要地として重要であった。そのため幕府は、慶長十七年（一六一二）と元和二年（一六一六）に船渡場御制札を公布し、渡船場に関所機能を与えて、交通を統制する政策をとった（『近世法制史料叢書』所収「御当家令条」二 三一）。

渡船による渡河は、一般的な方法ではあったが、田畑への耕作を目的とする作渡（さくわたし）渡船でも川船役所の許可を必要としたから、その数は限られていた。また、渡船は一年中行うものと、夏期（増水期）は渡船、冬期（渇水期）は仮橋で渡河する場合や橋の破損・流失したときだけ渡船で一時的に渡船で一時的に越し渡す場合がみられた。

市域における近世の主な渡船場は、鬼怒川流域の中島・福良、思川流域の黒本・小山・大行寺・塩沢・間中・網戸・下生井、巴波川流既では白鳥などがあった。また、このほかに市域の河川には多くの河岸が存在したがこれらも渡船場的機能を合わせ持っていたものが少なくなかった。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、487頁

4 地域と人々の心身の結びつき

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
国府塚学校	明治6年09月02日	下国府塚村 興永寺	60人 ※学区に上河原田村・下河原田村・小袋村・井岡村を含む
国府塚学校 間中村分校	明治6年12月09日	間中村 東光院 ※廃寺跡	75人
国府塚学校 大行寺村分校	明治7年08月01日	大行寺村 神宮寺 ※廃寺跡	39人

小学校設立一覧（穂積地区）。 出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年(1873)に全国で小学校の設立が本格化。
「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を
採り(中略)小山市域に設立された小学校の
ほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。
穂積地区では、下国府塚※、間中、大行寺に。

図 24 小学校設立一覧（穂積地区）。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年、73-86 頁



国府塚学校が置かれた興永寺。下国府塚。2024/07/23

今日の小山市立穂積小学校。萩島。2024/07/23

「小学校の設立には、さらに教師を確保するという
問題があった」「士族を中心とする当時の知識人によ
って(中略)そのなかで国府塚学校大行寺分校に
稲葉うたという女性教師が勤務していた点は注目に
値する」「彼女は栃木県における最初の女性教師」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

図 25 国府塚学校が置かれた興永寺（写真左。下国府塚）と今日の小山市立穂積小学校（同右。萩島）。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年、73-86 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



出典: 穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいとこ再発見ガイド穂積」(2017年)ほか

地区の方々による発行物が日常に潜む価値や魅力を

図 26 写真の発行物の他、市内の「おやま百景ガイドブック」を参考とした。

出典 | 穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいとこ再発見ガイド穂積」(2017年)ほか

「おやま百景」に選定された穂積地区の景観は、以下の通りである。

- 64 稲荷神社
- 65 蚕室づくりの農家(福田家)
- 66 間中の桜並木
- 67 穂積小学校跡の柳
- 68 防風林のある旧家(岸家)
- 69 国府神社のケヤキ
- 70 昔の名主を偲ばせる長屋門と塀(松本家)
- 71 等覚院
- 72 豊穂川

出典 | 小山市 | おやま百景ガイドブック、1994年発行、2004年改訂

https://www.city.oyama.tochigi.jp/kankou-bunka/rekishi_bunka/oyama100/page000073.html

5 景観から読みとれるその他のこと



屋敷林を残した家の例。上国府塚。2024/07/23



シラカシの高垣、カシグネまたはカシモガリ。同左。2024/07/23

「母屋の背後の庭をセドという。セドには、冬季の季節風を避けるための屋敷林を配する家が」。
「(前略)低地帯の農家では、広大な屋敷林を構える家が少なく、母屋の屋根の高さまで高くした生け垣を風除けにすることが多い」「櫛の木をきれいに刈り込んだカシグネ・カシモガリが多い」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978年、298-299頁。「櫛の木は燃えにくく、また常緑広葉樹であることから火除け・風除けに適しているのが一因であるといわれる」

図 27 「櫛の木は燃えにくく、また常緑広葉樹であることから火除け・風除けに適している（後略）」

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978 年、298-299 頁



大杉神社。上石塚。2024/06/26



上国府塚との境で見た大杉神社祈祷札。上石塚。2024/06/26

大杉神社は、「県内において、大きな河岸では水神として信仰される例が多い」「大きな川から離れたところにおける信仰は、悪疫防除が中心」。祭りでは、「村境で辻固め辻どめなどと称して、みこしをまわしたりおはやしをはやしたりし、竹などにお札をはさんで立てる」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978年、455-459頁

図 28 上石塚の大杉神社（写真左）と大杉神社祈祷札（同右。上国府塚との境で撮影）。

参照 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978 年、455-459 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



下石塚薬師堂。「文化15年(1818)、奉納された薬師如来立像を安置するために建立」。下石塚。2024/07/23

文化15年(1818)に建立。病氣平癒の薬師様として、
信仰を」。原則毎年4月8日に行われる花祭りでは、
「様々な花で飾られた小堂、花御堂の中に幼仏像を
まつり、甘茶を柄杓で(中略)掛けて祝います」。
市史より引用を。「当市でいちばん多いのは、眼の神様としての信仰」
「オシャカサマの像(誕生仏)に甘茶をかけ、さらにその甘茶を眼に
つけて」。下石塚では薬師様が信仰されますが、眼については?

出典:穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいところ再発見ガイド穂積」2017年。小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978年、477-479頁

図 29 下石塚薬師堂。「文化 15 年 (1818)、奉納された薬師如来立像を安置するために建立」。

参照 | 穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいところ再発見ガイド穂積」 2017 年
小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1978 年、455-459 頁



治水地形分類図。出典:国土地理院 | 地理院地図 間中桜並木(または間中の桜並木)。河川の氾濫の歴史を伝える遺構でもある。間中。2024/04/15

間中と塩沢の間を流れた思川旧河道の右岸堤防跡、
現在の栃木県道173号萩島白鳥線に、昭和15年(1940)、
約200 mにわたって桜が60本植えられ、
間中桜並木として地元自治会の方々が大切に。

出典:おやま百景 | 穂積地区 | 間中の桜並木 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/img/1687155341_6.jpg?1687155346 (2024-04-31 参照)

図 30 間中桜並木 (または間中の桜並木) は、河川の氾濫の歴史を伝える遺構でもある。

出典 | おやま百景 | 穂積地区 | 間中の桜並木 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/img/1687155341_6.jpg?1687155346

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 31 豊穂川。上石塚。2024/06/26。

出典 | おやま百景 | 穂積地区 | 豊穂川 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/img/1687155630_6.jpg?1687155634



図 32 間中に残る蚕室づくりの農家の例。煙を排出する気抜きの形状に複数の型がある。

出典 | 小山市「おやま百景」穂積地区 | 65 蚕室づくりの農家(福田家)

https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/img/1687155291_6.jpg?1687155295

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



穂積小学校(左手)と穂積グラウンド(右手)。萩島。2024/07/23

写真左と同地点で撮影。駐車場からグラウンドを見る

穂積グラウンド駐車場は、道路から少し角度を振って空間を確保し、木陰に車が置けます。夏の駐車が快適である他にも環境機能が期待され、市内のどこでも参考にできそうです。

図 33 穂積小学校東側の穂積グラウンド。萩島。2024/07/23。

「環境機能」は、火除け・風除け（図 27）の他、炭素貯留、熱環境調整、生物の生息環境確保など。



穂積小学校周辺の空中写真。1975/01/30

現在の同小学校周辺。出典：国土地理院 | 地理院地図

1975年の空中写真を見ると、穂積小学校は現在の穂積グラウンドの位置にあり、中学校跡地との境に木々が列植されていました。
以後、水路に沿って市道が通され、道路と木々の間が駐車場にされたことがわかります。

出典：国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)、小山市立穂積小学校「学校の歴史」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703300317_doc_207_0.pdf (2024-09-19 参照)

図 34 穂積小学校が穂積中学校跡地に移る前の 1975 年と現在の空中写真を比較する。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)

小山市立穂積小学校「学校の歴史」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703300317_doc_207_0.pdf

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



穂積小学校周辺の空中写真。1947/10/13

同左。1961/06/02 出典: 国土地理院 | 地理院地図

地区報告会で、当時穂積小学校の生徒だった方より校舎脇に水路が引かれていて子供たちが足を洗ったと教わりました。この水路に沿って生えていた木々が穂積グラウンド西縁に今も残っているとのこと。木々は、夏は水路端に影を落とし、冬は西風(季節風)を除ける効果も果たしたでしょう。

出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)、小山市立穂積小学校「学校の歴史」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703300317_doc_207_0.pdf (2024-09-19 参照)

図 35 穂積中学校が建つ前の 1947 年と同中学校開校後の 1961 年の空中写真を比較する。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-28 参照)

小山市立穂積小学校「学校の歴史」 https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703300317_doc_207_0.pdf



穂積小学校周辺の空中写真。1947/10/13

校庭の北西の縁への植樹は、周辺農家の屋敷林またはカシグネにならったように見受けられます。

出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2025-03-30 参照)

図 36 屋敷林の位置に着目して、上図左側の空中写真（1947 年）の撮影範囲をより広く見る。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp> (2025-03-30 参照)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 37 上生井の水田で見た半水生シダのミズワラビ。2021/09/21

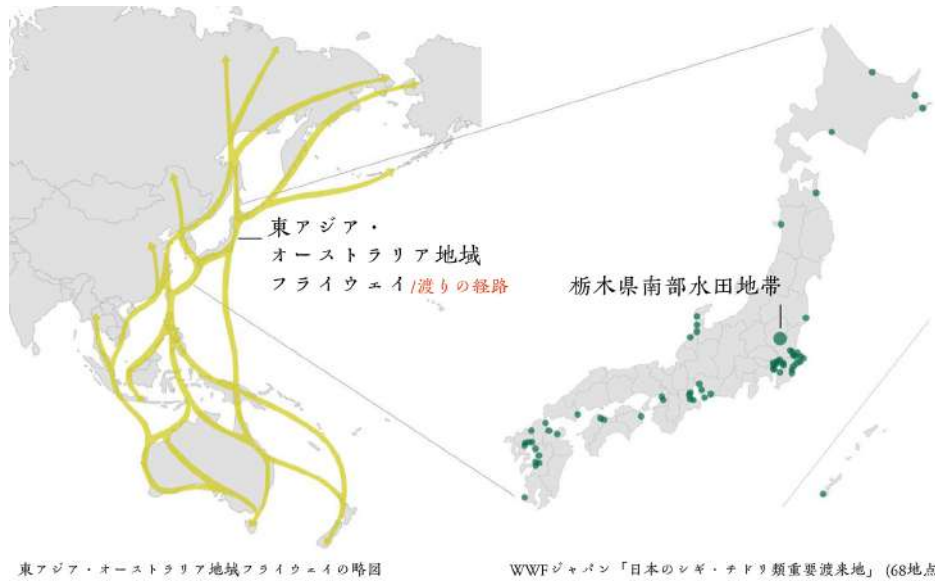
参照 | 日本のレッドデータ検索システム | ミズワラビ <http://jpnrdp.com/database/species/search/?s=%25E3%2583%259>



図 38 石ノ上と上国府塚の水田で見た半水生シダのミズワラビ。2024/07/22、23

参照 | 日本のレッドデータ検索システム | ミズワラビ <http://jpnrdp.com/database/species/search/?s=%25E3%2583%259>

II 踏査および文献調査による報告



シギ・チドリ類など渡り性の水鳥は、彼らが休息し
餌を採る湿地を結ぶ経路を毎年移動しています。

Source: David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110. / WWF ジャパン <https://www.wwf.jp/activities/sh/3458.html> (2024-08-19 参照)

図 39 東アジア・オーストラリア地域の渡り鳥の移動において、当地区も休息と採餌の場に。

参照 | David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110



ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井(生井地区)。2021/06/23

小山市では、湿地を通年確保して水鳥の渡りを
支えるため、冬も田に水を張るふゆみずたんぼを
9ヶ所、面積約7.9 haで協議会会員9名が、

出典: 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r> (2024-08-21 参照)

図 40 ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井(生井地区)。2021/06/23。

出典 | 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r>

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを
計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者が
それぞれ実施しています。

出典: 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-06-21 参照)

図 41 なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影。

出典 | 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0>



穂積地区調査地点。2024/05/10 (麦類栽培時)



2024/07/23 (麦類収穫後のなつみずたんぼ実施時)

鹿沼自然観察会の鈴木由清氏は、2015から
小山市内で夏期のシギ・チドリ類調査を行う。

図 42 穂積地区調査地点のなつみずたんぼ実施前後を比較する。

参照 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



トウネン。穂積地区。2022/09/07 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

トウネンは、当地区で比較的よく見られる鳥類。

図 47 トウネン。穂積地区。2022/09/07 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影。

トウネンは、繁殖地シベリア北東部、アラスカ北西部と越冬地の東南アジアなどの間を、春秋に渡る。
参照 | 鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024 年、資料編 3 頁



上石塚・下石塚・大行寺。1949/08/25

同左。2021/05/06。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

「低地の原形は圃場整備のためほとんど残っていないが、(中略)水田よりやや高位の微高地が」。
その中で、農地の扱いの工夫などにより、水鳥が。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、72 頁

図 48 上石塚・下石塚・大行寺。1949/08/25 (左) 。2021/05/06 (右) 。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年、72 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 49 写真は、耕起中の田 (左) とムナグロ (右)。

文中の※印の内容は、鹿沼自然観察会の鈴木由清氏より、2024 年 5 月 10 に現地で説明を受けた。



図 50 小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育する。

参照 | 風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015 年、3-23 頁

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

穂積地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、穂積地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、穂積地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和 6 年 3 月から 7 月にかけて、下記の 2 種類の簡易社会調査を行った。1 座談会形式のグループインタビュー 2 自治会加入全世帯を対象としたアンケート 自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・ 4 月 12 日:自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施(穂積公民館にて)
- ・ 3 月および 4 月に田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの広報周知を、回覧などを通して行った。

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の 4 つのグループで実施した。

①農業従事者の皆様： 3 月 11 日

新年度 4 月に入ると田植えの準備などで農繁期に入ることから 3 月のうちに設定し、6 名の方にご参加いただいた。

②子育て世代の皆様： 5 月 21 日

育成会役員の方々な 4 名の方にご参加いただいた。

③自治会長の皆様： 5 月 15 日

自治会長 6 名の方にご参加いただいた。

*各回には、地区ビジョン策定チームの市民委員や職員も同席した。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

①自己紹介として～穂積地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について

②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事

④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの

⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査

実施方法 1

- ・ 6 月初旬配布：広報配布時に、自治会/各班に仕分けし、班ごとの通い袋に入れ、各世帯に班長さんより配布していただいた。
- ・ 6 月 28 日を締切とし、自治会のご協力で回収 431 通（母数 691：回収率：62.3%）

実施方法 2

- ・ 紙の調査票の郵送と並行して、インターネットで回答をいただけるように、各世帯への依頼書に、グーグルフォームの二次元コードを記載した。
- ・ 締め切りは 7 月 15 日とし、5 名の回答があった。

回答数

- ・ 上記合計 436 名の回答により集計を行った・集計結果を、「小山市穂積地区アンケート調査集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の 3 種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料（アンケート調査集計結果報告書）に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用している。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 自治会リーダーの方々

- 1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏について
- 2：今と昔の変化
 - ・田んぼの集約化と、耕作放棄地
 - ・生き物や獣害の変化
 - ・養蚕のこと
- 3：穂積の伝統行事
 - ・穂積地区のお祭り
 - ・観音様のご開帳と護摩炊き
 - ・昔の子どもの様子
- 4：人口減少に伴う問題
 - ・自治会対抗の行事
 - ・空き家と後取りの問題
- 5：大切に守りたいこと
 - ・間中の桜並木
 - ・コミュニティの結束
 - ・新住民との関係・農業への理解

2 | 農業者の方々

- 1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり
- 2：昔と今の変化
 - ・昔の穂積地区の農業
 - ・風景や農業のやり方自体の変化
 - ・生き物の変化

- 3：穂積地区の稲作・畑作について
 - ・主食米と飼料米
 - ・耕作放棄地の状況
- 4：解消したい困りごと
 - ・獣害の問題
 - ・空き家の増加
- 5：大切に守っていききたいこと
 - ・田んぼの学校
 - ・地域の祭り
 - ・新しい農業に合わせた道路整備の必要性
 - ・農業者への支援の必要性

3 | 子育て世代の方々

- 1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏
- 2：地区の昔と今との変化
 - ・穂積の風景
 - ・子どもの遊びや体験の変化
 - ・放課後や週末の過ごし方
 - ・獣害の問題
- 3：地区の困りごと～地区に必要なこと
 - ・子育てを通したつながりをつくる環境が必要
 - ・小学校の学童の問題
 - ・歩きや自転車での移動の問題
 - ・中学・高校の通学
 - ・生活の利便性
- 4：大切に守りたいこと～穂積地区の魅力
 - ・自然環境と農業
 - ・お祭りや催事、地域と学校の関わり
 - ・30年後の穂積地区

1 | 自治会リーダーの方々

参加者：上石塚、上国府塚、石ノ上、大行寺、間中、下国府塚の自治会長、計6名

実施：2024年6月10日 18時～19時30分

場所：穂積公民館

1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏について

◎生まれも育ちも穂積だが、建築関係の仕事をやっていた。今は定年退職して、米とビール麦を作っている。

◎仕事では相模原や成田など、関東各地に行った。いろんな土地と比べると、穂積はいい。平らな土地だし、静かだし、住みやすい。

◎近くに便利な街はちゃんとあるが、住んでいるところはちょっと田舎で住みやすい。

◎定年退職の後に、自分の場合は全くの初心者で60から田んぼを始めた。親がやっているのを見ていたり少しは手伝っていたが、一貫して自分でやるのに、四苦八苦している。

普段の生活圏は近場だが、趣味の山歩きで、ここから見える栃木県の山はほとんど歩いた。9月に、だいたいお米の作業が終わるので、その後、日本百名山を少しずつ踏破しているところ。穂積は360度、山が見えるが見ているより登るほう。

◎生まれも育ちも小山市で、高校卒業後は、いったん千葉へ。その後、就職してからは宇都宮の会社に定年まで勤めていた。家には家庭菜園として小さな畑があって、92歳の母親がまだ現役でやっている。一緒に教わりながら家で食べる分を作っている。

◎私はここで生まれ育って、次男なので、いったんは小山地区にアパートを借りて2年くらい住んでいた。その後、分家としてまた戻ってきた。団

体職員として働いていたところを退職して、その後、また別の業界から声がかかって、営業的な仕事を続けている。小山市内だけではなく、下野や古河なども回る。自治会の活動については、協議員を10年ぐらいやって、2年間会計をやって、あと1年、自治会長としてやることに。

◎実家は、30年ぐらい前から農家はやめて、1町5反ぐらいしかないが、小作という形で人に貸している。税金などを差し引くと、プラスマイナス・ゼロぐらいになる。要するに農業機械とかを買うというのは、ベンツ5台を揃えることと同じ。とても無理なので、もう小作一本という形に。

◎小山市内や東京にいた時期もあるが、基本的には、ずっと穂積地区にいる。去年の3月に退職して、家が農家なので、今は麦を作り、自家消費の野菜を作っている。自治会との関わりは、8年ぐらい前に協議員を務め始めてから。

2：今と昔の変化

田んぼの集約化と、耕作放棄地

◎最初から定年したら農家を本気でやろうと思っていたので、周囲からも「定年になったら、うちの田んぼやってくれ、俺のうちもやってくれ」と、どんどん増えてしまって、もういいかげんにしないと、というぐらい広くやらせてもらって現在に至っている。

◎うちも、頼まれた田んぼばかり増えている。うちの田んぼもやってくれるかと聞かれると、地元の間人同士では嫌とは言えない。やっている、その隣の人からも「ついでだからお願い」と頼まれる。隣合っているから、やりやすいのだが。だいたい年齢80くらいで、自分ではもう無理になって、やれる人に頼む人が多い。

◎俺が80になったらもうやめるから、田んぼを頼むと、3年も4年も前から言われている。そういう人が2人ほどいる。

◎機械が壊れたたら、その時にやめるしか無いという人もいる。

◎自分たちも、60 過ぎていてから、10 年後に、自分たちもどうなるかわからない。子どもがやる、後を継ぐ、となれば話は別だけど。

◎今のところ、耕作放棄地で荒れているところは無いと思う。

◎昔は政府の政策で減反があって、夏でも田んぼができなかったのも、そういうところがぽつんぽつん結構あった。今は飼料米を作れるので、どこを見ても田んぼ一面青い。茶色いところがない。

◎風景も、昔よりは今の方が良くなった。減反政策の前に戻ったような景色。

生き物や獣害の変化

◎ただ、ホタルはいなくなった。昔は、豊穂川のところにホタルがよく出ていて、ニュースになったり、テレビでも報じられたりしていた。

◎それで見物の人がたくさん押しかけるようになって、ホタルも出なくなった。

◎自然の本当のホタルだったので。

◎大行寺のところ、簡単な護岸工事だけで、昔のままの川。あそこが一番多かった。自然のホタルがたくさんいた。

◎あそこはちょうど藻とかいろいろ生えていたのも、結構ホタルが出ていた。

◎今は、代わりに、タヌキ、ハクビシン、アライグマ。イノシシもシカも出るようになった。イノシシは、鹿沼の方から思い川を泳いでくる。大水が出たときに流れてくる。

◎一番ひどいのは豊田地区。島田橋の上。鉄橋の上あたり。

◎今、芋を食べられるなどの被害があるのは、豊田では島田、小宅あたりか。

◎間中でもジャガイモを食われたりしている。1 回、箱罾に大きいイノシシがかかったが、それ以降はかかっていない。間中に出るイノシシは、渡瀬川から上がってくる。

◎シカもいます。この間、2 頭見た。

◎黒本のほうにいたのが逃げ出して、んだね。向こうでやったら逃げ出して、穂積に来て、それから文化シャッターのほうから美田中のほうへ逃げていった。

◎上国府塚の神社でも 2 頭が目撃されている。それが巴波川の方へと行った。

◎自治会で箱罾を設置している。小山市で何十もあるが、全部が出払っていることが多く、借りられない。間中の隣に塩沢というところがあって、そこが二つ持っているから、その一つを借りる予定が、結局は、県が所有しているものが回ってきた。

◎稲も、イノシシが転がって倒してしまうと、匂いがついて、米が全部駄目になってしまう。

◎対策は、豊田の黒本橋のところまで木を全部伐採した。だから、棲み家がなくなってこっちに来た。

◎黒本橋の南側も順次切っていくということだ。イノシシは、ウリ坊は捕まるが親は捕まらない。頭がいい。あそこで火を燃やすと、全部、ハーヴェストのほうに逃げていく。

◎こっちで燃やすと向こうに行つて、向こうで燃やすとまた帰ってきて。

◎タケノコを食べるので、竹やぶの中へ入って行く。

◎塩沢は竹やぶが多い。一回も罾にかかってない。5,6 年前からやっているが。一回も罾にかかっていない。

◎水害があつてからイノシシが増えた。9 年前か。大水で鹿沼からイノシシが流されてきたから。

◎マムシまで流れて来た。散歩して犬がマムシにかまれて一巻の終わりかと思ったことがあった。

◎マムシも増えている。

養蚕のこと

◎昔は、間中でも養蚕農家が結構いた。今では 1

軒だけやっている。

◎自分のうちも蚕を飼っていた。子どものころ、蚕が桑を食うバリバリという音で眠れなかったことを覚えている。

◎お蚕さまがすごい数で、住まいの上にいるわけなので。2階がものすごく高くなっている。中2階もあるし、蚕を入れる建物が普通の2階と同じ。

◎間中だけではなく、昔はどこでもやっていた。でもだんだんとやめて、最終的には間中が残った。間中のあたりは桑畑も多かったのだ。

◎大行寺の白鷗大学があるところ、昔は、教習所があるあたりから東は、全部、桑畑だった。その名残で、まだ道が狭い。

◎県の試験場的なところで、農家は、そこから桑を摘んでいくことができた。

◎だから白鷗大にはマルベリー館と言う名前の施設がある。

◎昔の養蚕農家の大きな家はいくつかまだ残っている。

◎養蚕はやめた後、その家を利用して民泊をやっているところもある。

3：穂積の伝統行事

穂積地区のお祭り

◎上国府塚では昔、秋祭りの奉納で、子ども相撲というのがあった。でも、子どもが少なくなってしまってからはやっていない

◎間中でもやっていた。

◎子どもが少なくなったから、昔は男の子だけだったが、途中で女の子まで入れるようになって、それでもまた子どもが減ったので・・・。

◎上石塚はもともと観音様があるので相撲はやらない。女の神様なので。

◎大行寺では今でも土俵だけはつくって、神主にお祝いまではしてもらっている。それで終わりになっているが。

◎上国府塚でも藁でちゃんと土俵をつくっていた。昔、自分たちが本当に小さい頃は、露天がいくつも出て、結構派手な祭りだった。

◎今、覚えているのは、自治会によって祭りの日にちが違って、学校も、その祭りがある日は、早く帰っていいよ、という感じだった。今日は大行寺の子は、早く帰っていいよ、今日のかみこう（上国府塚）の子は帰っていいよ、と。

◎買った小遣いがもらえたり、地区によっては、買っても負けても参加したら100円がもらえたり。

◎お囃子は、今は、塩沢、石ノ上、間中、上国府塚が続いているようだ。

◎昔はどの地区もあって、小山市祇園祭にも出ていた。

◎今は太鼓をたたく人もいないし、笛も吹く人がいないから。

◎間中の夏祭りは、神輿を担ぐのは子どもで、大人のお囃子クラブが、お囃子を。子どもが多いときは、神輿を担いで一軒一軒回っていたが、今は、神社の周りをまわるけ。

◎石ノ上では、神輿は中学生が一軒一軒回っていて、それこそ小遣い稼ぎになっていた。

◎お囃子なども盛んなときには、まず公民館でやって、各班の班長さんの家まで行って、そこでお囃子を鳴らして、ちょっと飲み食いして、また次の班に行って、6カ所回っていた。

◎上国府塚は全部の家、200軒超えるところを回っていたから、途中で酔っ払ってしまう。

◎昔のお祭りは朝から夜中までかけてやっていた。それでみんな嫌になって。明日も仕事なのに。そういう変化もあって廃れてきた面もあると思う。

観音様のご開帳と護摩炊き

◎上石塚の等覚院の護摩炊きも、基本は8月17日で続いてきたが、お盆休みが16日までの会社も多くて、それで、16日に変えた経緯がある。

◎護摩炊きはコロナでずっとやっていなかった

が、落ち着いてから再開した。

◎観音経を読み上げるのもみんなでやる。昔は鉦もあったが、もうできる人がいないので太鼓だけで。ご開帳は、33年に一度。次は、2042年。

◎石ノ上も観音堂がある。8月9日にずっとやっていた。その日にやると四万六千日といって、それだけのお参りをしたことを1日で済ますことができるというご利益があるということだ。やはり33年に1回ご開帳をやっている。

◎間中は、5年前にご開帳をやった。

◎下国府塚は、33年のご開帳は、来年。それをどうやるかということで、今から大変だ。

◎順繰りに回っていく。だから、子どもがかぶるものなどの手配や、どこでやる、どこでやったという確認などをする。

◎下国府塚は、33年前に稚児行列をやるのに、京都から取り寄せてやったそう。

◎そうそう。うちがやったときもちゃんと借りてきてやる。

◎本格的に、というか、一応伝統的にやらなくてはならないので。

風景社：やり方などは、どうやって引き継いでいるのか
シミズ◎33年前に担当した人が、こうやってやるんだということを、ノートに書いてくれている。

◎中心になってやった人たちは、30年も経つと、もう生きていない人が多い。

◎3回やる人がいたとしたら、長生きでたいしたものだ。

◎自分は、2回やった。

◎直近のは、映像として残してある。

風景社：お寺さんと自治会で協力してやっているのか？

◎お寺さんが4、5人来る。

◎安産、子宝のご利益がある。子どもさんができない方は、観音様に上がった餅を食べると妊娠するという。子どもが生まれたらまたお参りに来てくれればさらにご利益があるという。

◎昔は観音様というと、ここらへん、大行寺から

全部の地区からほとんど来た。露店が出て、2日間やった。いやもっと長くやっていた。今は1日しかやらない。

◎途絶えさせないで続けていきたいが、若い人になると、経をなかなか覚えられない。

◎うちの地区は、毎年、8月16日にお坊さんが来て、護摩炊きをする時に、みんなで後ろにいて、一緒に言う。お客さんはその脇に来て、護摩を焚いて。それを毎年やっているうちに、だんだんと覚えられる人もいて……。しかし、お坊さんについて早く唱えないといけなかったので、息をついた瞬間に「あれ、覚えていない」となる。

◎最初だけ覚えられていても、途中から「うーん」言うくらい。最後のほうで、途中五字切りと言って5文字の文言が流れてくる。そうするとだいたい分かってくる。その間はなかなか覚えられない。

◎自分たちの頃は、子供の頃や若い頃から、普段から観音堂によく遊びに行っていたから、馴染んでいたが、以下の若い世代は、全く来ない。

◎自分たちの代になったら、ちゃんとやってくれるのかどうかは、わからない。今のわれわれがやっている代はまだなんとかなるかもしれないが、今後はどうなのか。人もいなくなるし、子どももあまりいない。押んでいく人がいなくなってしまう。いつまで持つか……。

◎何とか続けられればいいかなとは思っているのだが。

昔の子どもの様子

◎子どもの頃は、ドキドキワクワクがあった。日が沈んで暗くなっても、漢音様には、おおっぴらに出かけていいと認められているところがあって、観音様まで行って、押んで、なむなむして、小学校の友達とかがいっぱいいたりして、そこで一緒に遊べた。それが、今は遊びが、個人個人の私的な遊びしかないようだ。グループで集まるっ

て。そういうワクワク感がお祭りには昔はあった。今はそれが薄れてしまっているように思う。シミズ◎俺等のときは学校から帰ると学校で遊びでしょう。うちへ帰ってきてみんなで遊ぶ。今は誰も遊んでいる人いない。

◎同級生は知っていても、先輩も知らない、後輩も知らない、つながりがないという人が多い。

4：人口減少に伴う問題

自治会対抗の行事

◎祭りやお囃子もできなくなっているが、昔、小学校の校庭で夏休みの盆踊りや自治会対抗の野球ソフトボールなどもやっていた。

◎バトミントンとか体育祭とか。

◎盛り上がった。多分、どこの自治会にも賞状やトロフィーがある。

◎あれは結構盛り上がる。地域対抗でみんなが勝ちにこだわるから。

◎全員出てくる、小学生から高齢者も。それほど、人がいた。

◎中心になってやる人が怪我したり、人が減ったりで、今はやれていない。

空き家と後取りの問題

◎人は減ってきているが、うちの自治会は、今のところ空き家は無い。

◎うちは、1軒空き家になったが、幸い、次の方に入っていた。

◎空き家の1軒は、コマツのエンジニアのドイツ人の人が、自宅は鎌倉にあるが、こっちの家を借りて時々来て、犬を遊ばせたりして、週末の家のよう利用している。

◎今のところ、周りが空き家だらけというわけでは無いが、あと10年もしたらどうなる

か・・・。

◎大行寺は、以前、アパートを経営している人がいて、戸建ての貸家をやっていて、それが入居者がいないまま、ほったらかしになっているところ

がある。

◎ワンルームマンションのようなものなら、学生も入るだろうけど、昔ふうの古い借家では誰も入らない。

◎壊すのにも金がかかるら、ずっとそのままでは無い。

◎一番問題なのは、やはり後を取っている人が独身者が多いということだと思う。今もう50ぐらいになってしまう人で1人で住んでいる人が、かなりの軒数がある。そうすると、あと30年はもたない。あと20年かその辺で空き家になってしまう可能性が高い。そう言う世帯が何軒もある。というのが何軒かあります。

◎この取り組みも30年、40年後のビジョンを話しているが、30年後、40年後に、今の携帯で小山市があるのかどうか・・・、そう言う不安もあるにはあると思う。

◎超過死亡という言葉があって、小山市は超過死亡がどのくらいか分からないが、1年に80万も亡くなっている。出生率とか死亡率を考えていくと出生数がどんどん減って、死亡率が上がって、1年間に80万です。大都市が1個消えていく状況だから、それはどうなっていくのだろうというのが、現実問題としてある。

◎ベースとして、次世代を担う子どもたちが育たないと、いくらビジョンを討論しても机上の空論になってしまうので、小山市として、そこをどうしていくのか。総理大臣が異次元の少子化対策と言っているが、全く効果のない言葉ばかりで国が頼りにならないとなると、小山市長さんにはどうにかして、出生数が上がるような市政をしてもらいたい。それがベースになって、そのうえでビジョンが出てくるので。そう言う人口的なベースが崩れたら、ビジョンも空論になってしまう。

医療機関の問題

◎子育てする人たちを小山市に入ってきてもらいたいとなると、やはり、医療の面の改善は必要では無い。今の小山市の医療は初期救急、二次救

急、三次救急という医療の体制になっているが、一次救急は、軽い症状の人しか診ないということで、そこで診ずに二次救急に行くことになっていて、すぐに診てもらえるわけではない。その辺をなくして、子どもが少しでも熱があれば、すぐに診られる体制とか、そういうことをやっていかないと駄目だと思う。私は仕事で救急医療をやっていたのだが、このところが、ずっと永井こと改善されていない。

◎市民病院にも産婦人科が無いし。

◎小山で出産できる病院は二つぐらいしかない。

◎産科だけやめてしまっている病院が増えたので。産科は大変だから。

◎そういう面も充実していないと、小山に来て、次世代の子どもを産んで育てようという考えの人が来られない。

◎穂積には内科の個人病院が1軒しかない、歯医者や眼科は、小山のまちなかまで行くしかない。病院にかかるまでが大変。

◎まして子どもがいたら。急な発熱になって夜間診療に行ったとして、紹介状を持って市民病院に行ったとしても、市民病院で今日は小児科医がいなくなれば、次は自治医科大。たらい回しになる可能性もある。

5：大切に守りたいこと

間中の桜並木

◎間中の桜並木は、70年から80年ぐらいたっていて老木になっている。いつそれが倒れるか。道路の両脇にあるので、車に枝が落ちる危険性を心配している。そうなったら、誰が補償するのか、自治会で対応できるのかという問題がある。

◎全部で45本か50本ぐらいある。今までは、県の予算でアメリカシロヒトリの害虫駆除をやってくれていたが、県は、もうやらないということになってしまった。

◎害虫駆除は1本500円かかる。それをこれか

らは、毎年、自治会で負担しなくてはならないという、そういう問題が生じた。もう7、8年ぐらい前から、老木になってきたのでどうするかという問題があった。それに加えて、この害虫駆除の予算の問題が・・・。

◎東側には田んぼがあつて、そこへ古い枝が落ちてしまつて、稲刈りの機械を壊すから枝を切ってくれ、と、そういう要望もあり、今年2月にとりあえずみんなで切れるところを切ろうということでやったが、高齢者ばかりで、はしごを使う作業自体も危ない。

◎県にも全部伐採してしまいたいということ伝えてあるが、伐採にも予算がかかるので、県もすぐには対応できない。また、伐採には反対する声もあるし、なかなか難しい。

◎桜の寿命は60年くらいと聞いている。もう今は満開になつても7割ぐらいいしか咲かない。

◎県道なので、道路に落ちた枝は県が処分するが、逆に道路からはみ出た東側とか西側に関しては、県は対応しない。そういうのがあつて自治会として東側に落ちた枝切りとか、そういうものを行っているのだけど、限界がきているというところで。

◎なかなか悩ましい問題。

風景社（廣瀬）：インタビューから少し外れてしまうが。ソメイヨシノとか園芸品種を植えているのではないかと思う。寿命は短い。樹勢回復は樹木医に依頼してできますが、やはりもともと寿命が短いので、私もやはり50年、60年と聞いている。だから伐採も仕方がない。寿命が尽きてしまうので。伐採したら、次に寿命が長い品種の若い木を植えて、みんなで大切に育てれば、歴史は続くのではないかと思う。

コミュニティの結束

◎穂積は静かでいいところ。住んでいる人間もみんないいから、あまり苦情がない。だから、小学校の先生は、穂積小にきている間に産休を取りやすいと聞いている。

◎文句を言う人は誰もいない。おおらかに接してくれるから、穂積が過ごしやすくとよく言われる。

◎ここは地元の人間がほとんどだから、昔から考え方が変わらないところも多い。今の世の中は、粗探しやクレーマーが多いけど、学校や先生に対しても、昔からのままで「よろしくお願いします」と言う関係。都会では、先生もノイローゼになる人が多いと聞く。

◎農協なども同じような感じだ。今、美田支店と一緒にになっているが、以前、東京の職員に聞くと、一番行きたいのは穂積支店だと言っていた。

◎結局、地元の人間が多いと言うのは、顔見ただけでどこの人とわかり、「あ、どうも」と言葉を交わせる関係がベースにあるから。

市民委員さん：豊田もおおらかで穏やかだが、穂積は、それに加えてさらに何か結束が強いイメージがある。

◎こっちは農協の職員でもなんでも上の名前ではなくて下の名前で呼ぶ。みんなのことを。

◎そう。同じ苗字も多いので。

◎昔からの屋号で言うことも多い。

◎宿屋だとか籠屋だとか、下駄屋とか。

◎今、やっているわけでは無いが、昔の名残で。

新住民との関係・農業への理解

◎ホームセンターやスーパーができた立木の辺りは、新しい住宅やアパートも多い。昔からの田んぼもある。田んぼに入った農業機械が道路に出ると、当然、土が落ちる。すると、すぐに苦情の電話。ホウキを持って行って、道路の土をきれいに。もともと農地で、昔から農業やっている地域なのに、

◎田んぼが始まったらカエルの声がうるさくて、夜寝られないと文句言われたこともある。

◎大谷の方なども、そう言う意味では農家も大変ではないかと思う。

2 | 農業者の方々

参加者：40代が2名、60代以上が4名の計6名

実施：2024年3月11日 18時～19時30分

場所：穂積公民館

1：参加の方々の営農の状況や地域との関わり

◎昨年の7月からの農業委員会の農地利用最適化推進委員。ずっと兼業でやってきて、60で退職。勤めていた時は、朝4時に起きて田んぼへ行って、田植え前の代かきなんかやってから仕事に行ったり、大変だった。米とビール麦を作っている。近所の離農する人から任せられた田んぼも含めて、16町歩。野菜も作りたいが、なかなか手が回ら無い。生活圏は小山だが、住んでいる場所が、小山と栃木市の真ん中だから、栃木市にもいくし、気分転換にJRで都内まで行くことも。

◎主な作物としては、米とビール麦。60歳まで勤めて、再任用という話もあったが、それでは農業の方が間に合わない、と断った。自分が45歳の時に父が亡くなって、それからずっと一人でやっている。最初の頃は兼業でとても苦労した。仕事から帰って粃すりやって、後片付けすると、もう夜11時。稲刈りの時は時間休をとって。職場の仲間に迷惑をかけたかもしれないが、時間休が取れる職場だったので、やってこれた。

◎農事組合法人でやっている。今、50ヘクタールを超えた面積で、米、麦、そして野菜を少し作っている。最初は平成19年ごろ、国の指導で集落営農組織を作れということで、それぞれの地域で1カ所ぐらい、集落営農組織というのがあると思うが、それを作っていた。要するに集落営農というのは個人の方が集まって作った組織なので、あくまでも個人個人の仕事としてやっている。それではこれからはどうしても難しい。将来の経営は難しくなるだろうというようなことで、

集落営農の組織の中の、そういう同じような考えを持っている人たちが集まって法人化しようという形で、平成 28 年に組織化して、現在に至っている。自分の生活圏はやはり小山市内で 4 号線寄り、西側。東のほうへ行くのはそんなにない。

◎自分も退職するまではサラリーマン。今日の参加者のように勤めながら家業の農業をやっているケースが多く、皆さん定年を迎えてから、本格的に農業をきちんとこれからやっていこうというような流れで、今、やっている部分がほとんど。それから 10 年以上経って、やはり後継者の問題が深刻。なんとか後継者を作りたいと、育てようというような形を考えてやっている。このところ、なんとか少しずつ若い方が入ってきてくれるような形になってきているというのが現状だ。

◎親の後を継いで、30 ヘクタール くらいで、作物は水稻、ビール麦、小麦、大豆を作っている。自分は、農業を手伝いながらでもできる仕事ということで、ある程度休みが取れるような仕事をやりながら親を手伝ってきた。体力的にも親が農業をやるのが難しくなってきたので、ここ 2、3 年くらいで、自分が中心にやるようになった。父もできる範囲で続けていて、兄が時々手伝ってくれる。

◎父親と一緒に、12 町くらいで米、麦、大豆、ブロッコリー、レタスを作っている。自分たちの父親は、だいたい 72 歳とか 74 歳とか。今は、機械を使うから、ある程度の高齢になっても作業ができることはできる。

◎60 代では、まだ若い、まだ小僧っ子だと言われる。

2：昔と今の変化

昔の穂積地区の農業

◎昔はどこも養蚕をやっていた。特に間中あたりが盛ん。

◎間中で 1 軒だけ今も養蚕をやっている。昔は穂

積養蚕組合という組織があって 60 軒くらいが参加していた。大行寺、間中、塩沢、下国府塚など。

◎穂積は、昔は、米と麦と養蚕が主な産業だった。

◎昔と今の変化で言えば、昭和 40 年代あたりから、コンバインだとか田植え機だとかトラクター、そういう機械が出てきて、親の世代も農作業が楽になってきたことが、大きな変化。

◎昔はお互いに手伝いをして、田植えというともんな来て、手植えでやった。

◎どこの地区へ今日は田植えに行く、終わったら今度はお返しでこっちに来てもらったり。

◎小さい農家の人たちが、自分のところは小さいから早く終わって、大きい農家のところへ手伝いに行った。

◎機械が出てくるまでは、しろかきなどに牛も使っていた。

◎自分たちが小さい頃は、家の一番いいところに、牛馬がいた。玄関入って脇に牛馬の小屋があった。

◎日当たりが良くて、一番いい場所。

◎自分は親父に言われて、餌やり当番だった。牛でも相手が子どもとわかると、馬鹿にする。餌を上げても角で押しのけてくる。りこうだった。

◎馬は知らなかったが、最初、馬がいて、馬をやめて今度は牛になったらしい。子どもの頃は家に牛がいた。

◎草は、今はお荷物というか厄介なんだが、昔は草は家畜の餌になるので、早く草刈りに行かないとなくなっちゃう。近くの草場が刈られてしまうと、遠くへ行かなくちゃならないから、行き帰りも大変だった。今のように乗用車でなく歩きだから、かごを背負って。

◎あと、田んぼにレンゲ畑を作っていて、そのレンゲを食べさせたりした。

◎牛馬は、しろかきに使ったり、運搬に使ったり、ほかには、堆肥を利用する。

◎今のように化学肥料がないから、牛糞、馬糞を堆肥して、田んぼに散らしていたね。有機栽培で田んぼに散らす。そういう感じだったですね。

◎40代の自分にとっては生まれる前のことだから、初めて聞いた。人間と一緒に家で住んでいたとか。しろかきも写真でしか見たことが無い。

◎しろかきも、実は大変だ。家畜はいうことを聞かないから。昔、我々の親の世代では、家畜の競技会などもあった。どの家の家畜が、まっすぐに耕運できるかを競う。

◎牛なんか、動かなくなったらもう終わりだから。もうそのまま動かない。

風景や農業のやり方自体の変化

◎田んぼの風景も変化した。土地改良が終わって、田んぼがきれいに四角の田の字型になった。昔はあれが小さい田んぼが何カ所かにあって、あぜ道もクネクネしていて・・・。

◎農業も、このところ、かなりのスピードで変わっている。今は若い方が多いので、スマート農業という流れになっている。われわれも直進機能がついた、要するにGPSが付いた田植え機だとかトラクターだとか、そういうのを少しずつ入れる形では使い始めているが。それを使うためにはやはり基盤整備というか、機械が使えるような環境をこれから作らなければいけない状況になっている。だからそれぞれの地域でそういう機械を使いやすいような圃場を、スマート農業の機械が使いやすいような圃場を作っていかなければいけないという流れにきていると思う。

◎一区画の田んぼを大きくしていく。それが今はどんどん進んでいる。

◎農業のやり方というか、作業の仕方自体が、自分たちの若い時からすると、かなり変わった。

◎ちょうど、その変化を体験してきた世代になる。

◎小学校のころから「今日は苗やれ」なんて、田植えを手伝わされて、そうして、70代になっ

て、スマート農業とか、そういうやり方への変化まで、ずっと変化を体験してきた世代・・・。

◎子どもの頃、苗運びの手伝いやらされた。

◎田んぼの中を「舟」に載せて苗を、手植えしている大人たちに運んでいた。それは子どもの仕事だった。

◎自分たち40台は、田植え機しか知らない・・・。

◎手植えと言っても、機械がうまく植えられなかった四隅だけ手植えした経験くらいしかない。

◎穂積は若手も育っているし、これから地域計画を作るにあたっても、そういうのはスムーズにいくんじゃないかと思っている。

◎若手としては、農業人口が圧倒的に減ってしまうので、1人当たりが抱える面積とか、圧倒的に増えるのは目に見えている。だから、機械をいかに使って、人員をいかに少なくして効率よくやっていくかということになる。面積をこなしていくとなるとそうなるので、機械も当然、大型化していくし、そうなるくと、個人でやっていくのにもいいかげん限界がくるのではないかと考えている。

◎やっぱり、何かしら新しい組織を作るとか、今現在ではまだその案は出ていないが、可能性は本当にゼロではない。

◎その先、先を考えていかないと・・・。

生き物の変化

◎子どもの頃は、ホタルもいて、捕まえて遊んでいた。といっても小学校低学年とか、その頃にはもういなくなっていた。

◎ホタルもそうだが、ドジョウとかもいなくなった。昔は田んぼにいろいろいた。

◎自然な川っていうのが無くなったから。土地改良、区画整理をやって、それでできた用水路とか排水路とかばかりになっているから、昔からの川というのが、だんだんと少なくなってきた。そういう影響もあると思う。

- ◎そうだ、ドジョウが潜れる土の川というのが無い。
- ◎みんな U 字溝にしてしまったから、いなくなっちゃっている。エビガニだって見ない。
- ◎エビガニ、アメリカザリガニだな。
- ◎昔はいっぱいいて、竿を持って行って釣って遊んでいた。カエルが餌だった。
- ◎そう、エビガニを釣って、それを鍋で茹でて食べた。
- ◎大きいのは伊勢海老みたいだった。
- ◎昔は除草剤、薬、農薬なんかないから、食べても安心。
- ◎食用ガエルの、ウシガエル。昔はああいういのもたくさんいた。今は、見ないような・・・。
- ◎間中にはいる。
- ◎ああ、たまに声が聞こえる。

3：穂積地区の稲作・畑作について

主食米と飼料米

- ◎増やしている方は増やしていると思う。主食米については、農業再生協議会というのがあって、そこから「あなたはどのぐらい主食米を作ってください」というのがくる。それに基づいて営農計画を作る。個人的には、いろいろ考えがあると思うが、だいたいその計画でに沿って主食米と飼料米を振り分けて作っていると思う。
- ◎主食米も値段が安い。だから主食米を減らして、補助金が出る飼料米で収量が取れる品種を作るという人が多い。
- ◎穂積は、ずっと、その名前の通り、米作りを中心にやってきたところ。味もおいしいと言われる。
- ◎おいしさの理由は、いろいろあるかもしれないが、土質が一番大きいのでは無いかと思う。
- ◎水管理に困るというのは最近は少ない。自然用水と、あと井戸を掘るので、そのくみ上げ用水を使っている。だから、よほどのことがない限りは

水が不足することはない。

- ◎土地改良でポンプを掘っている。昔は巴波八ヶ村水利組合（名称の裏付け取れず）があり、巴波から水を引いてる。清水川土地改良区は特に、それも一部使っている。
- ◎いずれにしても河川の量がやはり、最近少なくなっているところもあり、以前ほど量がこないというので、各地に必要なところに井戸を掘って、それで用水として使っている。地下水は、今のところ、豊富だ。
- ◎ただ、家庭も共同ポンプで組み上げているから、農業用の組み上げの影響で、家庭の水が出にくくなるということはあると思う。

耕作放棄地の状況

- ◎今のところは農業委員がいろいろ骨を折ってくれているので、耕作放棄された田んぼは、ほとんどないと思う。
- ◎小山市の中でも、穂積が一番少ないと思う。少ないというか、放棄地がないのではないかな。
- ◎われわれも含めて、先ほど話が合ったようにそれなりの規模でやって、高齢でできなくなったところを引き受けているので。

畑作について

- ◎畑地だと、やっぱり借りる人いない。
- ◎水がこない。
- ◎野菜は機械でなかなかできないので手作業がメインになる。人手がないとできないから田んぼよりは難しい面もあると思う。
- ◎確かに難しいです。この辺は、東側に比べて畑は少ないが。
- ◎田んぼは 1 ヘクタール増えても、どうってことないというか大型機械でやってしまえるが、畑などは 1 ヘクタール増えるといったら大変だろう。
- ◎全く人が足りなくなる。米よりも手間がかかるから。
- ◎うちは米作りと並行して野菜をやるので、米作りのスケジュールと調整してやりやすい野菜を選

ぶしかなく、レタスとブロッコリーをメインに。レタスは基本、冬で、収穫は2月3月。実は畑でもハウスでもなく、米が終わった田んぼに、元肥を入れてトンネルを作ってレタスをやっている。穂積地区であれば、水はけのよい田んぼを選んで、排水対策をしっかりやれば、別に問題はない。ブロッコリーは、麦を刈った後に作っている。収穫が10月下旬から11月中旬くらいまで。自分が農業を始めてからこのやり方で、10年くらい続けている。

◎穂積では、販売を前提に畑作だけやっていると農家はないと思う。

◎元は桑畑で、桑を抜いて畑にして、自分お家が食べるぐらいの野菜を作っているなど、そういう家が多いようだ。

4：解消したい困りごと

獣害の問題

◎イノシシはそれほどまだ多くないが、出てきている。

◎この間、間中の堤防のところの河原に箱罟を設置して、100キロくらいのイノシシがかかった。

◎やはり思川沿いで出没している。

◎でも最近は堤防を越えて集落のほうまで来ている。さっき話したように桑を抜いたところで畑などをしていると、うちなんかは、去年、ジャガイモを食べられた。

◎田んぼは電柵しているところもあれば何もしないところも・・・。

◎田んぼのほうに出始めたのは昨年ぐらいから。それまでは土手があって、土手の中外でも目撃があった。去年から田んぼのほうまでくるようになった。

◎塩沢では河原に田んぼ作っているところもあって、そこはイノシシがうろうろしている。

◎塩沢かな、シカもいたらしい。

◎あと困るのは、ハクビシンとタヌキだ。イチゴ

もやられている。

◎家庭菜園では、カラスのいたずらにも困っている。

◎トウモロコシ、スイカとか。あと2、3日で食べられそうだなというと、もう人間より先に食べている。トウモロコシは、飛び乗って足でぶら下があれば、ぽきっと欠ける。カラスは頭がいいから。

空き家の増加

◎農業から離れて地域を見ても、最近は空き家とか高齢者だけのおたくとかが、だんだん増えてきている。子どもがいる家庭でも、家を出て他所で世帯を持っているところが多い。そうすると実際、こっちにいるのはお年寄りだけ。お年寄りが亡くなると、そこは空き家になってしまう。そういう空き家がこれからだんだん増えていくように思う。その対策を真剣に考えていかないと。人口もだんだん減っていくし。

◎地区によって差があるが、うちの近くもお年寄りだけしか住んでいない家は何軒もある。

◎田んぼは、若い人たちが守ってくれるとしても、家だけは他人ではどうにもならない。

◎小山市も思川を挟んで東西で分かれていて、東はどんどん住宅が建って、どんどん人口が増えていって、西部地区は田んぼ、農家、調整区域だし、人口は減っていってしまう。本当に二分化していってしまうような感じになっているから、その辺をやはり対策を考えていかないといけないと思う。

◎空き家の樹木にしても、そのままだとよく無いが、それを処分するのにもお金がかかる。ではそのお金はどこから出るんだ？ということにもなる。

◎幸いに間中では「まなかのいえ」という名前で空き家を活用した民泊の施設が2軒できている。

◎空き家になった建物は、遠くに行った子どもたちも要らないというケースが多い。それを取り壊

すにしても何百万もかかる。更地にするのも大変だ。

5：大切に守っていききたいこと

田んぼの学校

◎今、小学校で田んぼの学校ってやっている。1年生から6年生まで全学年で5月の初めぐらいに田植えをして、9月に鎌で収穫をして、はぜかけをして、それを脱穀して、そのお米を子どもたちが食べる。これずっと続けている。

◎これはいい習慣で、ずっと残していければというふうに思っている。

◎もう20年以上は続いていると思う。われわれもその田んぼの学校の役員。これはやはり続けていくべきことだと思う。

◎この間、1年生から6年生までの子どもたちが、お礼の手紙を書いてくれて、役員はそれぞれが受け取った。

◎それを読むと「この体験は一生忘れない」と書いてくれている。

◎小山地区の学校などではできない体験。若い先生なんかも全く初めての体験だと思う。長靴も履いてこない（笑）。

◎子どもたちも田植えは見たことあると思うが、今は、機械だから。手植えは、見たこともなければやったことも無いはず。

◎昔のやり方の紐を張って、まっすぐ植えられるように、教えてあげる。こうやって植えるんだよ、と。1年生なんかまだ遊び半分。

◎鎌で稲刈りしたら、はぜがけをして、脱穀の時は、大人がコンバインでやるのだが、子どもたちが、はぜがけから稲を運んできてくれる。

◎そうして、自分が植えたお米を食べるわけだから。本当に忘れられない体験になる。

地域の祭り

◎祭りは、集落ごとに夏祭りか秋祭りがある。

◎以前は、子どもたちが結構いたので、夏祭りの場合は、中学生を中心にお神輿を担いで、一軒一軒回ることをやっていた。

◎お囃子やって回るのが楽しみだった。

◎最近子どもが少なくなってきたんで、それができなくなってしまった。これは穂積に限らず、どこの地区もそうだと思う。

◎上国府塚では、昔、秋祭りに子ども奉納相撲があった。

◎神社に土俵を作って、参道に露天商が来て。最近子どもがいないから、廃止になってしまった。

◎春、夏、秋とお祭りがあるが、夏祭りというのは要するに五穀豊穡で、神輿なんかに最初に実った穂をつけていた。

◎そうそう。その年、初めて田んぼに実った穂をとってきて、神輿につける。

◎役員が田んぼを見渡して、最初に出た穂が見つかったら、その田んぼの地主に話をして、もらってくる。だから役員さんは大変だった。

◎今のように温暖化なら、すぐ穂も出るだろうが、昔はそうはならなかった。

◎確かに。なかなか出ないから探すのが大変だった。

◎秋祭りは、収穫へのお礼。お供えを上げたり、いろいろとやっていた。

◎中学生が神輿を担いだのも、自分たちの代で終わりだったと思う。だから、25年くらい前までは、そうやっていた。

◎自分たちの代は、中学の時、1学年で120人はいたから。

◎今は20人前後みたいだから当然1クラスしかできない。

◎復活はできないかもしれない。復活したいけど・・・。

◎お囃子は、今70歳以上の人たちは、昔やっていて体に染みついているから、太鼓が出ると自然

と動くと思う。

◎間中は、今も 30 代と 40 代の 15 人前後でお囃子を続けている。

◎塩沢もやっている。

◎年長の方が教えにきて、それでできるようになったら、あとは若い世代に任せるという感じ。

◎いろんな曲があるが、昔やっていた人が、たぶん自分なりに作ってくれた楽譜のようなものがある。

◎よく、聞いて覚えると言われるが、聞いて覚えろと言っても、毎日やっているわけじゃないから、そう簡単には覚えられない。

◎昔は小山市内の夏祭りも盛んで、そのときはスポンサーが付いて穂積からも市内の祭りに出て行った。街の中へ行ったんだから。

◎そうそう、テラーという運搬機に太鼓などを載せて運んで行った。

◎それに昔は、お酒は飲み放題で、今のように飲酒運転は関係ない時代だったから。いい時代だった。

◎気がついたら田んぼの中を走っていた・・・。

新しい農業に合わせた道路整備の必要性

◎30 年後の未来と言われてもイメージ湧かないが。

◎5 年後すら湧かないで。

◎農業をやっている側としては、商業施設とかレジャー施設とか、そういう開発が進んで欲しいという発展は要らない。

◎むしろ、農業者が使う道路を整備する必要がある。道路を広げてほしい。

◎トラクターとかで走っていて、向こうからくる一般車とすれ違えないところがある。

◎農道に農耕者優先という立て札があっても、一般の人たちが入ってきてしまう。

◎あれはなんとかしてほしい。

◎さっきの話に繋がるが、若い人たちがやる気になって田んぼの面積を増やしている。そうすると

当然、機械も大型化になってくる。それが昔の農道を舗装したぐらいの農道では、普通の乗用車が抜け道として入ってこられると、すれ違いができない。

◎農耕車優先の道路なので、そういう時は、一般車がバックして避けるはずだが、逆に、こっちが怒鳴られる。こっちに「寄せろ」と怒鳴る。

◎だから、向こうからも来ているのが見えたら、こっちで先手を打って一本先に曲がるとか気を使わないといけない。

◎忙しい田植えとか稲刈りの時に、道路にトラック置いておくと、入ってきた一般車が「こんなところになんで止めておくんだ」ということを言う。

◎昔、農道は舗装されていなかったから、一般車が入ってくることもなかった。今は、舗装されて、それはそれで助かるが、一般車が入ってきてしまうのは困る。だから、逆に、舗装を砂利道に戻してくれと言っている。

◎だから、商業施設とか人が集まってしまうようなものは、要らない。

◎とにかく道を広くしてもらわないと。大規模化も進めにくい。

◎田んぼを機械で代かきする時は、開いて横幅 6 メートルの機械がついている。畳んでもたたんでも 2 メートル 40 センチ。

◎だから、スマート農業とか集約化の推進は、農道の整備も一緒にやらないといけないが、それは国とか県とかの支援が必要になってくる。

◎穂積の場合は、道の駅の西側に JA のスタンドがあって、あそこからまっすぐ南へずっと抜けていく。それが間中から出たところの網戸へ行く道にぶつかる。ちょうど田植えの 5 月の連休の時にも、一般車がたくさん入ってくる。

◎北は卒島のほうまで抜けられるから。

◎だから、これからどうなるかわからないが、メインの道路に側道を付けてもらえば一番いいのではないか。要するに農耕車専用道路。そういう計

画で途中まできているので、道の駅から上もたぶんそういうことでやってくれば一番ありがたい。

◎田んぼの面積を削ってでも、道路を付けてもらったほうがありがたい。

◎そのほうが安心して仕事できる。

◎農耕車専用の道路。これから必要になるかもしれない。

農業者への支援の必要性

◎若い人たちが一生懸命農業をやろうとしている。先ほど言ったように、これからどうしても規模拡大をせざるを得なくなってくるので、そうするとやはり、いろいろな資金負担がかなり大きくなる。だから、そういう支援を市のほうでも県のほうでも国のほうでも、ある程度、使い勝手のいいような資金を提供してもらおうと経営的には少し楽になると思う。

◎農業機械の値上がりが本当に辛い。何千万もの投資はそう簡単にできない。

◎米の値段が今後上がっていけばいいが、その前の問題として経営のための資金への助成がないと、立ち行かなくなる。

◎米の値段にしても、助成にしても、国の方で、食料という位置づけ、食糧政策を将来に向けてどうするのかと言うことを、きちっと国のほうで考えてもらえれば一番いい。そうすれば、農家はみんな安定した経営ができるようになると思う。

◎価格にしても上がったり下がったり、毎年、国の方針が変わっている。そんな中で、ではわれわれはどうやってこれからやっていけばいいのかという部分で、農業者は悩んでいる。若い人たちは特に、これからどうやっていったらいいんだと。その辺をきちんと明確に、政治のほうでリードする形にもらえれば一番いいかもしれない。

◎兼業農家は農外収入があるじゃないですか。農業以外の収入からやりくりして機械を購入する人も多い。専業でやっている農家は、逆に大変。そ

れだけで生活を立てているわけなので、農業機械だの農薬、肥料の価格が上がると、本当に大変。

◎われわれ農家は自分たちの収入をきちんと取ることができていない。一般の給与水準には達していないと思う。例えば、40代だとだいたい30万、あるいは職種によるけどそれ以上の給与があるとして、農業では、とうていそこまでいかない。

◎だから、農家それをやっぱり一般企業と同じような収入を得られるように、保障なり助成なりで、そういう形に持って行ってあげないと、若い人は就農できない。生活していけないから。そのあたりを変えていかないと、農業は廃れるいっぱいだ。

3 | 子育て世代の方々

参加者：穂積で生まれ育った方、市内の他地区で生まれ育ち結婚を機に穂積に来た方、合計4名

実施：2024年5月21日 18時～19時30分

場所：穂積公民館

1：参加者の方々の地域との関わりや生活圏

◎地区外の扶桑団地で育って小学校3年生の時に穂積に引っ越してきた。それからはずっとここで暮らし、今は桑地区のネギの生産会社に通勤しながら、育成会の活動をしている。普段の生活圏は立木に買い物に行く。ハーヴェストやイオンまで行くことも多い。小学5年生と大学生がいる。

◎大谷地区で生まれ育ち、結婚を機に、夫の家がある穂積に来た。フルに働いていて、育成会の役員をしているが、特にそれ以外での地域活動はしていない。普段の生活圏は、近隣の立木など。時々、佐野のイオンに行くこともあり、少し頑張って出かける時は、羽生のイオンや宇都宮まで出かけることも。

◎生まれも育ちも穂積で、母が米農家をやっているのので、それを手伝っている。普段の生活圏は小山市内のショッピングセンターとか、佐野のアウトレットに行くことが多い。

◎生まれも育ちも穂積地区で、仕事をしながら育成会の活動をしている。近隣で生活しながら佐野まで出かけることもある。

◎以前は、大平まで買い物に行くこともあったが、立木にベisiaが出来てからは大平には行かなくなった。

2：地区の昔と今との変化

穂積の風景

◎田園風景がずっと変わらないので、あまり変わ

ったというイメージが無い。

◎十数年前だと思うが、土手に桜並木ができたのがいいと思う。毎年、桜の季節が楽しみで、子どもと犬と、よく散歩に行くようになった。

◎田んぼもあまり変わらないと思うが、うちもお米をやっているのので、たまに稲穂の間から雑草とかがぴょんぴょんと伸びている田んぼを見ると、ああ、きつとうちみたいに共働きとか、忙しいんだらうなというふうに見ている。

子どもの遊びや体験の変化

◎だいぶ変わったと思う。昔は学校から帰ってきて、近所の子がみんな集まって外で遊んでいた。今は、外で遊んでいる子を見かけない。

◎私たちの頃は、オタマジacksonを捕まえたり、花の蜜を吸ったりして自然の中で遊んでいた。

◎私もそうだったが、今は子どもが減ったので、気軽に集まって遊べないという事情もある。

◎あと治安の問題で、親もついつい心配してしまう。穂積の治安が悪いというわけではないが、子どもが対象になる犯罪などのニュースが伝わりやすくなってきたので、なかなか外に一人ですすというのは難しいと思う。

◎外で遊ぶと言っても、庭くらい。

◎本当は、外で思い切り遊んで欲しいけど・・・。

◎外遊びや自然の中での遊びに興味はあると思うけれど、今は、部屋の中でYouTubeとか見たりゲームしたりというのが、普通になってしまっている。それで育ってしまっている。

◎外で遊んでほしい。

◎親としても今、農薬が気になったり犬の糞尿もあるので、そういう心配もあって、今は、花の蜜は吸っちゃ駄目と、つい言ってしまう。

◎学校では、遊水地に行ったり、米作りの体験などをやっている。

◎みんなで作ったお米は、上の子の時は、学校祭でカレーライスにしていたが、最近は、収穫した

お米を分けて持ち帰ってくる。

◎家の田植えは、手伝いという感じで、待っている間に虫を見つけたりして遊びが始まるが、学校での田植えや稲刈りは、みんなできゃあきゃあ言いながら、とても楽しいみたい。

放課後や週末の過ごし方

◎間中地区は、公民館に集まって遊ぶこともあるようだ。

◎週末に行事があったらそこに集まって、公民館でちょっと話し合った後に子どもが外で遊んでいるたりすることはある。幼稚園の学童に行っている子もいるし、平日はなかなか一緒に遊ぶというのは難しい状況になっている。

◎週に5日は習い事などを入れている。ひとりっ子なので、家に一人でいると、どうしてもYouTubeばかり見てしまう。小山地区まで送迎したり、穂積グラウンドでやっているサッカーに参加したり。サッカーは、園に来ている体操教室が、小学生を対象にサッカー教室をやってくれているので。

◎穂積には、公民館の隣のみのり幼稚園と、大行寺に白鷗大学の幼稚園がある。

◎うちは、みのり幼稚園の学童に通っているが、学童の先生が小学校まで迎えに来てくれて、一緒に歩いて学童まで行ってくれるので、安心して通わせられる。

獣害の問題

◎昔と比べて、イノシシがよく出るようになったと思う。

◎うちの近所でも目撃されているし。

◎家は、土手の近くにあるが、土手のすぐ向こう側にはイノシシがいるので、地区の人たちが捕獲しようとしている。この間は近所のおばちゃんが畑のイモを食べられてしまったらしくて、気をつけようと近所の人たちと話している。

◎ウリ坊もいるので、小さい子どももいるので。

◎イノシシは、川は渡れないと家族が言っていて、うちのほうは本当にあまり出たことがなかったが、最近では出ている。

◎橋を渡ってきているのか・・・。

◎大水とかで川に流れて、だんだん下りてきているという話も聞いた。

◎向こう側よりはこちらのほうが作物あるから。

◎昔より、ハクビシンやタヌキも見erようになった。

◎タヌキは、うちの庭を歩いてたし、道路でよく轢かれている。

◎コウモリも増えて、夕方、すごく飛んでいる。

◎家の壁にもくっついていてことがある。子どもが「リスみたいなのが止まっている」とつついたら、飛んで行った。

◎屋根裏とかによくいるし、本当に増えた。果物とか作物も、家庭菜園とかでも豊富なので、狙っているのだと思う。

3：地区の困りごと～地区に必要なこと

子育てを通したつながりをつくる環境が必要

◎他の地区から来て子育てを始めて、一番困ったのが、就学前に同世代の子どもなど誰も知り合いがいなくて、誰とも交流が持てなかったこと。

◎ご近所とかも、あそこに小学生がいるんだろうなという感じとかは分かるんですけど、なかなか。もう本当に子育てで精いっぱい積極的に自分から動けなかった。幼稚園や公民館でも就学前の子どもの交流など機会はあったと思う。よく行っていたのは、近かったので豊田の小山西保育園の就学前の子どもを遊ばせてくれるところ。行った先でたまに同じ年のお子さんとかと会えたとしても、やはりなかなかつながらなくて、小学校に入るまでは子どもの近所のお友達がいない状態だったなという・・・。

◎下の子が白鷗だったが、白鷗も就学前の集まりがあって、今はなくなったが、前はあった「おも

チャライブラリー」というスペースで、よく遊んでいた。

◎就学前の、学校が始まってからも、子どもと一緒にふらっと行ける公園が欲しい。

◎歩いて気軽に行けて、使える公園があると、ずいぶん違うと思う。

◎県南があるので、車で10分でわりと近いのですぐに行けるけど、そこに行っても知り合いがいるわけではないから・・・。

◎ベイシアの裏にできた住宅地に、しゃれた滑り台のある公園があって、子どもたちが遊びたがるから、買い物の帰りに寄ったりしている。でも、知り合いはいない。

◎やっぱり地区の中に1つはあって欲しい。

◎神社に、鉄棒が1つとか、小さな滑り台があるとか、そういう場所はあるけど。

◎子どもも一人では行きたがらないから、あまり使わない。

小学校の学童の問題

◎幼稚園で小学生も学童保育として預かってくれる。以前は6年生まで預かってくれていたが、友人から聞いた話では、最近では学年で制限がついて、3年生までということになっているようだ。友人は、下の子は預けられるが、4年生のおねえちゃんが入れなくなっちゃうので、とても不便になったと言っていた。

◎預かるほうにも事情があると思うが、学校まで遠い家が多くて、特に最近の暑い夏や、土砂降りの時でも、仕事をしていたら迎えには行けない。とは言っても子どもだけで歩いて帰らせるのは、なかなかつらい。

◎うちはまだ2年生なので預かってもらっているからいいけれど、市街地の方だったら6年生まで預けられる学童も多いから、うちの地区もそうなのと良いのだが。

◎穂積は、帰り道が学校から集落までは田んぼの一本道で、間には田んぼとかハウスしかなくて、

人通りもない。もし助けを求めたいことがあったときに、途中に家も無いし、喉が渇いて水筒の中が空っぽのときに、お水くださいと言える家も無い。だから、4年生になって、ひとりで歩いて帰ることになることを考えると、少し心配になる。

◎祖父母に預けても、具合が悪い時もあるし・・・。

◎悪天候になった時など「何時下校になったので迎えにきてください」と学校から連絡が入ったりしても、働いていると対応できない時もある。

◎私などは、子どもの下校時刻に合わせて仕事の時間を決めざるをえない・・・。本当は、もう少し働きたいが、なかなか難しいというところ。

歩きや自転車での移動の問題

◎道が狭いののに車の往来があって、人や自転車と車の距離が近いから、とにかく、子どもは徒歩でも自転車でも出歩きにくい。歩道や自転車レーンの整備がとても必要だと、家でもよく家族で話している。

◎中学は自転車通学で、縁石がないような歩道も多いし、通勤車の抜け道になっているようで車もスピード出しているので、とても危ない。

◎歩道というか、ラインが引いてあるのが片側だけだったりするし、自転車通行レーンもない状態なので。

◎4号の抜け道として使う方が多くいるから、子どもが道路を横断しないといけない時も、止まってくれない車が多い。保護者が一緒だと、止める確率は増えるようだ。

◎通学路が田んぼの畔に近いようなところなので、その農業者の車が入ってきたりするのはしょうがないとしても、それでちょっと避けて子どもが田んぼに落ちたこともある。水を張っている時期だと、辛い。

中学・高校の通学

◎立木に店舗ができて便利になったが、高校から

の通学には交通手段がないので、親の手がかかる。上の子は、小山高校まで自転車で30分くらいかけて通っていて、雨の日は車で送ることになる。当時は、自転車では観覧橋を上がるのが嫌だと言っていた。

◎高校も近くには無いし、市内でスクールバスがあるとありがたいと思う。仕事をしていると送迎も難しい。親も子も大変な思いで通うことになる。私が働き始めてからは、子どもは「車、出せないの?」と、泣きながら通っていた。

◎北桜高校は、小金井駅と高校を結ぶスクールバスがあると思う。

◎私立高校のバスは、小山駅にお迎えがきていると思う。

◎青藍泰斗とか、佐野日大とか。

◎国学院は栃木駅からバスがある。

◎確かにこっちに来ていない。

◎ここから国学院に行くとなると、思川まで自転車で行って、思川駅から栃木に行って。本当に大変。どこに行くにしても大変ですね。

◎だから、家からなんとか自転車で通える高校を親は勧めがちになる。

生活の利便性

◎病院は、地区内の1つだけ個人病院があって、基本的に全般を見てくれるので助かっている。

◎ただ、少し重症っぽいときに、どこに行ったらいいだろうというのは悩むことがある。

◎今の市民病院の隣の休日夜間に行くこともある。

◎立木のベイシアの隣に歯医者もできているし、穂積は、小山駅東や城南も車だとわりと近いので、あまり不便を感じないこともある。

◎それから防災無線に少し不便を感じている。最初のチャイムと「こちら防災小山です」は聞こえるが、その後の内容がほぼ聞こえない。耳を澄まして聞こえないときがあって。もう少し屋外のスピーカーを増やすなり、同時にメールをくれる

なりしてくれると、ありがたいですね。

◎うちはスピーカーに近いので、わりと聞こえる。

◎スピーカーが2カ所あって、家の場所によっては、混じり合って、どちらが何を言っているのか分からないようなときがあると思う。

◎水害があったときは、全く聞こえなかった

◎最初、何か言っているのは分かっても「逃げて」と言っているのか、そうでも無いのかすら、わからない。

◎一齐に、メールなりLINEなりで送信してくれる方が確実だと思う。

◎市のメール配信を登録していればお知らせが来るか、不審者の通知など、タイムラグがあって「え、昨日の話?」という時もある。

◎やはり、防災や治安に関することはリアルタイムで確実に知りたい。

◎あとは、おーバスなどの問題。高齢の親や祖父母世代に、やはり運転が危ないので、免許を返納させたいと思っても、おーバスとかが充実していないと、なかなか返納を勧められない。

◎返納させる理由というかきっかけとして、交通網が増えると、家族としても、バスで移動できるよと、勧めやすいが、それも言えない。

4：大切に守りたいこと～穂積地区の魅力

自然環境と農業

◎緑が多いことは、とても自慢。

◎家で米を作ったり、野菜を作っているところが多いので、子どもが手伝いをしないまでも、そうやってお野菜ができているんだとか、こうなったら収穫できるんだとかというのを知ることができていると思う。都会の生活に比べて、それはすごく子どもたちにとっていいことだなと思っている。

◎自然が豊かなので子どもの体験や教育にもいいと思う。息子は、虫も大丈夫だし、トカゲも大丈

夫だし、全般そういうのが平気なので。まちなかの子は虫と触れ合う機会が少ないと思うので、そういうところはよかったかなと思う。

お祭りや催事、地域と学校の関わり

◎昔は祭りも盛んで、地区ごとでお神輿を担いで、近所を一軒一軒回っていた。

◎おじいちゃん、おばあちゃんたちがお菓子をくれたりしていて、楽しみだった。でも最近では、子どもが少ないこともあって、簡略化されて、以前のようにはやれていない。

◎子ども神輿も結構前にやらなくなったと思う。

◎今は、祭りの時だけ神輿を出して、担がれることなく、午後にはしまわれて……。なんだか、ただの虫ぼしのようなのだ。

◎夫が子どものころは、祭りの奉納相撲で誰が勝った負けたで、ご褒美がもらえたりとか、お小遣いがもらえたりして、すごく盛り上がったという話を聞いている。うちの自治会は今、男の子は3人しかいないので、相撲も難しい。

◎お囃子も昔はどこもやっていた。

◎今、塩沢は続いていて、夏が近くなると練習が始まって、金曜とか土曜の夜になると、お囃子の音が聞こえてくる。

◎風物詩のような感じ。

◎地区のお祭りとか、小山の花火大会のお囃子などに出ているみたい。

◎大人だけのお囃子だけど、夏祭りがあるときに子どもに触らせてくれて、太鼓をたたかせてもらえたりする。大人もゆるく、お酒を飲みながらやっている。引退したおじいちゃんとかも必ず顔を出している。

◎あとは、育成会も協力して、自治会で公民館祭りを冬にやっている。貴重な交流の機会だと思う。

◎育成会の行事も、前はバスでお出かけしたこともあったが、席の都合で希望者全員が行けなかったりもするので、今年は、ドッジビー大会を計画

している。フリスビーみたいなものをボールの代わりに投げるもの。

◎ボールが苦手な子もいるので、これだと普通のボールより痛く無いので、ドッジボールではなくて、ドッジビー大会にしている。

◎去年も企画したけれど、インフルエンザの流行で中止して、今年が初めて。

◎子どもの人数が少ないから、卒業までに育成会の役員が何回か回ってくるところもあるけど、それほど不満とかは出ていないと思う。

◎もう何年も前、上の子の頃に、役員の負担が大変だから育成界を抜けるというケースはあったけれど、それほど頻繁にあるわけではない。

◎穂積小は、今、1年生が8人で、2年生が28人、3年生が16人、4年生は13人くらいかも。

◎5年生が24人で、6年生も少なく、確か9人かな。

◎いつかは統合という話もあるかもしれないが、通うための交通や安全の確保が必要になると思う。地域のよりどころとして、小学校は大切だけだ。

◎この前、学校の運営協議会に参加して、穂積のおじいちゃんたちが学校運営にとっても協力的ということが分かった。田んぼの学校だったりとか、運営協議会の会長さんだったり、いろいろなことで協力してくださっていて、それがこの地域の強みになっていることを実感した。3世代で住んでいる家も多いので、学校の会議におじいちゃんが出てくることも、まちなかに比べたら、とても多いと思う。それに意欲がある方が多くて、田んぼから何から何まで協力いただけることが、子どもたちにとっては、とてもありがたいと思う。

30年後の穂積地区

◎やはり、子育てしやすい環境が一番で、それが整ってくると良いと思う。妊活をする人も少なくは無いし、子どもをつくることから、育てることで、環境が良くなると良い。

◎きれいな麦畑や水田は残したい。でも、誰がやっていくのかということも考えないと・・・。

◎そこなんですよね、担い手の問題。

◎難しい問題だけど、もうちょっと人口が増えてくれたら、穂積地区全体が活気あふれるように・・・、昔のように元気が出てくるかなと思う。

◎若い人もだいぶUターンで帰ってきてはいると思う。

◎欲を言ってしまうと、小学校が1クラスしかないから、もう少し増えて、2クラスできるぐらいの子ども的人数がいたら、活気も出てくるかな。

◎せめて2クラスは欲しい。欲しいですね。

◎学校は、人間関係を学ぶ場でもあると思うので・・・。

◎結婚していなくて単身の家庭や、お子さんがいない家も結構多いと思うが、もう少しコミュニケーションが取れたらいいと思う。夏祭りとかそういうイベントでないと、なかなか交流する機会もないので・・・。地区の人たちと、コミュニケーションを取りつつ、子どもが大きくなったときには、近所の方とも気軽に話しできるような環境にしていきたい。

◎それから、まちなかの学校とこちらの田園部の学校と、交換留学ではないけど、そういう子どもたちの交流があっても良いと思う。

◎まちの子が田舎の学校を体験をしてみたり、田舎の子がまちの子の体験をしてみたり、そういう仕組みが作れたら面白いと思う。

3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

穂積地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

回答数/回答率について（再掲）

回答数

- ・回答総数：436 件
- ・自治会のご協力で回収：431
母数 691 回収率 62.3%
- ・インターネット回答：5

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 63% :274 名	女性 31% :134 名
---------------	---------------

その他 0 名 無記入 28 名 無効 0

-2 年代

70 代以上	48%	209 名	72%
60 代	24%	105 名	
50 代	17%	72 名	25%
40 代	8%	35 名	
30 代	1%	5 名	1%
20 代以下	0%	0 名	

無記入 9 名 無効 1 名

-3 世帯人数（回答数が多い順）

2 人世帯	37%	160 名
4 人以上世帯	25%	111 名
3 人世帯	17%	75 名
本人 1 人世帯	13%	56 名

無記入 34 名 無効 0 名

-4 職業（回答数が多い順）

無職	35%	159 名
会社員	23%	103 名
農業（専業）	11%	51 名
パート/アルバイト	10%	46 名
農業（兼業）	10%	44 名
自営業	6%	29 名
公務員	2%	8 名
団体職員	0%	1 名
学生	0%	1 名

その他 2 名、無記入 13 名 無効 2 名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

-7 穂積地区との関わり～回答が多い順（選択肢から選ぶ方式）

無記入 47 名、無効 7 名

穂積地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。 | 158 名 (37%)

穂積地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。 | 49 名 (12%)

穂積地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。 | 22 名 (5%)

穂積地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った | 23 名 (5%)

小山市の他の地区で生まれ育ち、穂積地区に移り住んだ。 | 62 名 (15%)

栃木県内の他の市町で生まれ育ち、穂積地区に移り住んだ。 | 44 名 (10%)

栃木県外で生まれ育ち、穂積地区に移り住んだ。 | 44 名 (10%)

穂積地区
生まれ 59%

穂積地区以外の県
内から移住 25%

県外から移住 10%

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		10%	20%
栃木県内の他の市町で生まれた		10%	
小山市で 生まれた	他の地区	15%	74%
	穂積地区	59%	

●コメント欄の記述

穂積地区に他所から移り住んで来た人やUターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。(コメント回答 158 件)

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①結婚に関する理由で (結婚を機に実家に) など含む	66
②実家との関係	50
③仕事の関係で	11

●穂積地区へUターンした人の記入コメントより

①結婚に関する理由で

◎結婚した相手が穂積出身 ◎夫の家族と同居、など

②実家との関係で親の介護 ◎長男なので ◎親の敷地に家を建てて、など

③仕事の関係で

◎転職 ◎長期派遣から地元に戻った ◎会社員から農家に転職、など

1-2 集計結果より

ここで特筆すべきは、結婚を機に穂積地区に移り住んだ女性の存在だと思われる。自由記述のコメント欄や、グループインタビューなどでも、穂積地区に溶け込み、歴史や背景などを理解しながら、新しい視点で、地区の問題点や今後の可能性を語ってくださっている。

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

-1 仕事や学校へ通っている地域

-2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
穂積地区	127	小山地区（駅西）	193
小山地区（駅西）	36	小山地区（駅東）	92
栃木市	34	間々田地区	23
小山地区（駅東）	30	豊田地区	20
県内の他の市町	18	栃木市	17
東京都	10	穂積地区	13
大谷北中部地区	8	県内の他の市町	10
間々田地区	6	東京都	2
茨城県	6	宇都宮市	2
宇都宮市	5	大谷北中部地区	1
大谷南部地区	4	茨城県	1
豊田地区	3	大谷南部地区	1
野木町	3	埼玉県	1
埼玉県	3	桑地区	1
群馬県・千葉県	3	中地区	1
絹地区	2		
桑地区	1		
中地区	1		
その他	5		
		その他	4

-1 無記入 131 無効 0

-2 無記入 49 無効 0

選択肢から2つを選ぶ

-3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域

-4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	184	県内の他の市町	79
小山地区（駅西）	178	栃木市	77
宇都宮市	77	小山地区（駅西）	74
県内の他の市町	56	穂積地区	63
栃木市	55	茨城県	47
東京都	33	群馬県・千葉県	39
穂積地区	31	小山地区（駅東）	34
茨城県	19	宇都宮市	29
間々田地区	17	埼玉県	14
埼玉県	13	間々田地区	13
群馬県・千葉県	12	東京都	9
桑地区	8	生井地区	5
豊田地区	6	桑地区	3
野木町	6	野木町	3
大谷北中部地区	3	大谷北中部地区	3
大谷南部地区	3	豊田地区	1
中地区	2		
絹地区	1		
生井地区	1		
その他	9		
		その他	32

-3 無記入 63 無効 0 名

-4 無記入 145 無効 0 名

2-2 集計結果より

穂積地区では、仕事や通学においては、地区内で完結している回答者が127名と多い一方で、日常的な買い物においては、穂積地区内で済ませている人は、13名と非常に少ない状況である。

日常的な買い物では小山地区（駅西）、休日などの特別な買い物や会食などでは小山地区（駅東/駅西）に出かける人が圧倒的に多い。

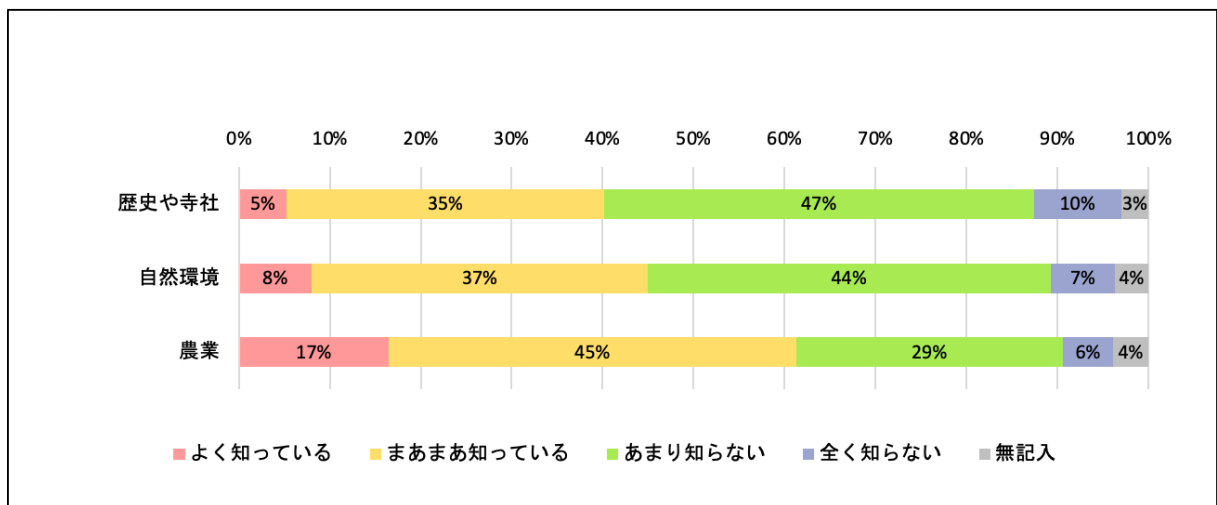
栃木市との結びつきが高い中地区、栃木市や間々田地区との結びつきが高い寒川地区と違って、小山地区が生活圏になっている穂積地区。地理的な位置関係の違いから、三者三様の生活圏内となっている。

3：穂積地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

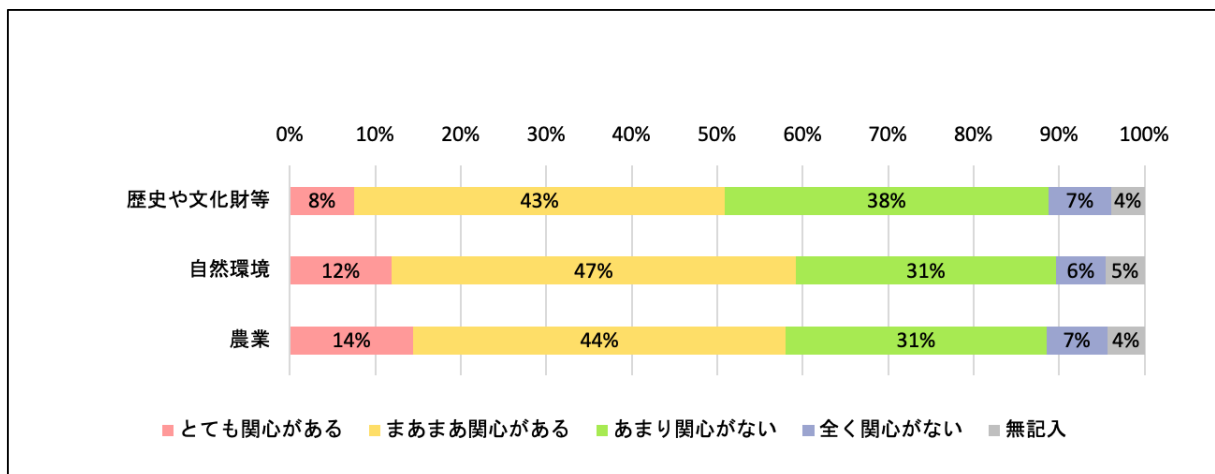
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
 (2)地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？
 (3)地区内の農業についてどのような地域でどのような農業が行われているか知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
 (2)地区に残る自然環境に関心がありますか？
 (3)地区の農業に関心がありますか？



●年代別の集計結果

* 年齢別回答人数が少ないため、%表記ではなく人数での記載とします。

(1)穂積地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	184 名		245 名		218 名		197 名	
	32 名	152 名	203 名	42 名	32 名	186 名	165 名	32 名
20/30 代	0 名	1 名	4 名	0 名	1 名	1 名	2 名	1 名
40 代	1 名	11 名	16 名	5 名	2 名	15 名	13 名	3 名
50 代	2 名	16 名	36 名	17 名	6 名	25 名	29 名	11 名
60 代	14 名	29 名	63 名	9 名	5 名	46 名	44 名	9 名
70 代～	15 名	95 名	84 名	11 名	18 名	99 名	77 名	8 名

(2)穂積地区の公園、街路樹、平地林などについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	172 名		245 名		183 名		156 名	
	27 名	145 名	207 名	38 名	52 名	131 名	131 名	25 名
20/30 代	0 名	1 名	4 名	0 名	1 名	1 名	2 名	1 名
40 代	1 名	11 名	16 名	5 名	6 名	14 名	10 名	3 名
50 代	2 名	16 名	36 名	17 名	4 名	31 名	26 名	10 名
60 代	4 名	29 名	63 名	9 名	9 名	53 名	37 名	6 名
70 代～	20 名	88 名	88 名	7 名	32 名	105 名	56 名	5 名

(3)穂積地区の農業について (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	265 名		150 名		250 名		163 名	
	71 名	194 名	127 名	23 名	63 名	187 名	133 名	30 名
20/30 代	1 名	1 名	3 名	0 名	2 名	0 名	2 名	1 名
40 代	2 名	17 名	11 名	3 名	5 名	15 名	10 名	3 名
50 代	9 名	25 名	30 名	6 名	6 名	25 名	28 名	11 名
60 代	15 名	54 名	29 名	6 名	11 名	51 名	36 名	7 名
70 代～	44 名	97 名	54 名	8 名	39 名	96 名	57 名	8 名

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える穂積地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— 事前に自治会長の皆様への説明時にご相談して設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数）

1 公共交通の不便さ	133
2 買い物の不便さ	129
3 農業の担い手、後継者不足	125
4 台風・大雨による被害	103
5 地域活動の担い手、後継者不足	101
6 人口減少	82
7 昔からの風習	66
8 道路の不具合	60
9 空き家・空き地の増加	58
10 地域の集まりや寄り合い	45
11 地域でのコミュニケーションの不足	31
12 祭りや伝統芸能の担い手、後継者不足	30
13 医療機関の不足	28

14 路上等のゴミとゴミ出しのマナーの悪さ	27
15 子どもが外遊びできる場所の減少	25
16 騒音など住環境への影響	22
17 選択肢が少ない教育環境	13
18 治安の悪化	11
19 選択肢が少ない働く場所	8
20 交通渋滞	4

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 人口減少・担い手・後継者不足	30.7%
2 生活環境に関すること	25.0%
3 交通や移動に関すること	17.9%
4 地域コミュニティに関すること	12.9%
5 水害に関すること	9.4%
6 教育環境や就労に関すること	4.1%

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

30代 5名	40代 35名	50代 72名	60代 105名	70代以上 209名
4名が選択 ・道路状況の悪さ	1 買い物の不便さ 2 昔からの風習	1 公共交通の不便さ 1 買い物の不便さ	1 農業の担い手不足 2 台風や大雨の被害	1 買い物の不便さ 2 公共交通の不便さ
3名が選択 ・昔からの風習	2 人口減少 3 農業の担い手不足	2 台風や大雨の被害 3 昔からの風習	3 地域の担い手不足 4 公共交通の不便さ	3 農業の担い手不足 4 地域の担い手不足
2名が選択 ・子どもの外遊び環境 ・買い物の不便さ	3 公共交通の不便さ 4 台風や大雨の被害 5 地域の集まり	4 地域の集まり 4 人口減少 5 農業の担い手不足	5 人口減少 6 買い物の不便さ 7 空き家・空き地	5 台風や大雨の被害 6 人口減少 7 空き家・空き地
1名が選択 ・農業の担い手不足 ・人口減少 ・働く選択肢の少なさ ・台風や大雨の被害	6 地域の担い手不足 6 道路状況の悪さ	6 地域の担い手不足 7 選択肢が少ない教育環境 7 子どもが外遊びできる場所の減少	7 道路状況の悪さ 8 昔からの風習 9 路上などのゴミやゴミ出しのマナー	8 昔からの風習 9 道路状況の悪さ 10 地域でのコミュニケーション不足

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

4-2 集計結果より

中地区での「解消したい困りごと」は、単独の項目としては、他の地区と同様に「公共交通の不便さ」が最多の結果となっている。しかし、ジャンル（領域）に分類して見てみると、「公共交通の不便さ・道路状況の不具合・渋滞」という「移動に関する利便性の低さ」より「人口減少に伴う地域の様々な活動の担い手不足」についての「不安」が上回っている。また、水害に関する不安の声も多く挙げられている。

以下に掲載する設問【4】の自由記述に寄せられたコメント（一部を抜粋して紹介）から、その詳細を把握していく必要がある。

(1) 人口減少に伴う諸問題

地域運営の困難さ

◎この地区で生まれて、外に出た人は戻ってきたいとは思わない。戻るメリットがない。昔の風習など面倒なことが多い。未婚が多い、結婚しても戻ってはこない。外から人を入れないと、人口は増加しない ◎高齢者の一人暮らしも増えている ◎限界集落に近づいている状態に不安!! ◎一人暮らしの老人が増してくる ◎下国府塚自治会もだんだん高齢化が進んで若い人が入ってこない（嫁さんが来ない）後継者不足に不安を感じています ◎空き家は加速していくと思われ対策を考えて頂きたい ◎大行寺も高齢化が進み、10年後は空き家が急増すると思われる。田園環境を発展させるには、まずは高齢化対策に取り組むべきと考えます ◎高齢になった時不便になる ◎女性だけの観音講。自治会規約にもないのに、任意ではなく強制のようで、代表者がいるわけではない。本来の目的から離れているのでは？ ◎地域の人口減少のため、同じ人がいくつも役員を担当している ◎葬儀があると自治体全員に通知があり全員が香典を渡している。そろそろこの慣習をやめ

ては？ ◎月～土まで仕事をしていて、日曜日に草刈り、缶ひろい等を企画されては休めない。シルバー人材などを活用してほしい（金がかかっても） ◎地域（自治会）に対する市からの要求が多すぎる

農業の継承

◎農地の放棄地や空き家は今後どうするのか？ ◎農地の維持管理ができない。火災時に消防車が入れない ◎離農による放棄地が増えている。農業を守る対策を真剣に考えていく必要がある

(2) 移動の問題と生活の不便さ

道路状況

◎道路幅の狭さ及び信号機の少なさ ◎道幅せまく、車の通りは激しいので、早く拡張してほしい。下石塚信号付近、早くから話は出ているが、なかなか実現していない ◎狭い道がずっとそのままの状態。父が倒れて救急車を呼んだのに道が狭いせいで到着が遅くなり、命の危機さえ感じた。早急に解決してほしい。消防車は入れないといわれた。火事がおきたらどうするの？ ◎まったく手入れをしていない林、道路におおいかぶさる大きな木。安全面が心配 ◎歩道が整備されていない

公共交通機関

◎おーバスの時間（駅から）が AM10:00、正午頃、PM3:00 が有ると嬉しい。本数が少ないと思う ◎おーバスの停留所が遠くて利用できない ◎バスが通っていないので子どもに使わせたいが不便 ◎バスの利便性が悪いから地域の居住者は自家用車を使用。今は良いが年齢により免許返納となると買い物困難者となり生活困難となります ◎バス等走るようにしてほしい！ ◎小山駅前の駐車場が足りない。家族を迎えにいくたびに困る

買い物などの不便さ

◎車がないと何もできない。どこにも行けない
◎スーパー、コンビニがない ◎穂積地区にはスーパーがないので、高齢者には困る。小さい個人病院ではなくある程度総合的に診てくれる医療機関があってほしい ◎穂積地区にスーパーやコンビニがもっとあると助かる ◎スーパーが欲しい
◎ベシアができて助かっている。車の運転ができなくなった場合、生活できない

(3) 水害に関する意見

◎台風時の大雨で思川の氾濫が心配 ◎昔から土地（道路）が低くできているので台風等の時は冠水してしまう！！ ◎数年前の大雨で思川（大行寺）が決壊した時の田んぼが海の様になった事。本当に怖かった。二度とあの思いはしたくない
◎ハザードマップからの情報で小山市安全安心情報メールは携帯に入れた。屋外スピーカーが聞きとれず（台風、大雨時）ハザードマップに再度確認できますよという電話番号を添付できないか。
ペットのいる方の救助方法 ◎台風被害があったにも関わらず、何の進展変化もしていない。（下水道の復興） ◎いつも水害の不安がある ◎台風時の道路の冠水の対策ですが、白鷺大近くの豊穂川の回りは対策が進んでいるようですが、下国府塚地区では何の対策もされていないと思います

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える穂積地区の小さな自慢は何でしょう？」

設問【4】と同様に選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・168
- 2 地域の農業・・・・・・・・・・・・・・157
- 3 消防団や自治会など地域の互助活動・・・117
- 4 街路樹や公園、平地林などの自然・・・・78
- 5 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・・76
- 6 まちなみや景観・・・・・・・・・・・・72
- 7 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・・61
- 8 買い物の利便性・・・・・・・・・・・・60
- 9 交通の利便性・・・・・・・・・・・・53
- 10 公民館で行われる祭りやイベント・・・・48
- 11 趣味やスポーツの地域のサークル・・・・36
- 12 地域の商業・・・・・・・・・・・・8
- 13 地域の工業・・・・・・・・・・・・4

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

歴史的な地域の資源	32.5%
利便性が良いこと	12.0%
地域に残る自然環境	8.3%
地域コミュニティの繋がり	21.4%
地域の産業	18.0% (農業のみで 16.7%)
地域の景観	6.7%

●その他について

その他を選択した回答が7件。コメント欄に具体的な記載があったものは3件で、以下の通り。

◎住みやすさ ◎治安 ◎何もない

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

30代 5名	40代 35名	50代 72名	60代 105名	70代以上 209名
3名が選択	1 歴史的史跡や寺社	1 まちなみや景観	1 歴史的史跡や寺社	1 歴史的跡や寺社
・歴史的な史跡や寺社	2 残っている自然	2 地域の農業	2 地域の農業	2 地域の農業
・残っている自然	2 地域の農業	3 歴史的史跡や寺社	3 地域の互助活動	3 地域の互助活動
・まちなみや景観	3 地域の互助活動	4 残っている自然	4 まちなみや景観	4 祭りや伝統芸能
2名が選択	4 祭りや伝統芸能	5 地域の互助活動	5 歴史ある建築や古木	5 歴史ある建築や古木
・地域の農業	5 交通の利便性	6 祭りや伝統芸能	6 祭りや伝統芸能	5 買い物の利便性
1名が選択	5 まちなみや景観	7 歴史ある建築や古木	6 残っている自然	6 公民館で行われる催事
・買い物の利便性	6 買い物の利便性	7 公民館で行われる催事	7 買い物の利便性	7 地域のサークル
・地域の工業		7 交通の利便性	8 交通の利便性	8 交通の利便性
				8 残っている自然

全回答者による上位3項目は、赤・青・緑の文字。年代により、差異がある項目は下線をひいている

5-2 集計結果より

「大切に守り未来に繋ぎたいもの」を訪ねた設問【5】では、全11地区のうち、田園部を中心にした6地区において、「地域に残る歴史ある史跡や寺社」が最多となっている。また、小山市西部の田園地帯、寒川・中・穂積の3地区においては、「地域の農業」「自治会など地域の互助活動」が、それに続いている。この3地区には「地域に残る歴史ある寺社を大切に守り、地域の互助活動や人とのつながりや、地域の農業を大切に考えている」という共通の傾向があるものの、それぞれの特性に応じて細やかな把握が必要となる。

穂積地区の特性としては、この3地区の中でも「地域の農業を大切に守りたい」という項目を選んだ人が最も多い(36.0%。寒川地区は32.0%、中地区は30.1%)結果となっている。以下、設問【5】の自由記述より一部を抜粋して紹介する。

(1) 歴史ある史跡、寺社、風習、伝統芸能など

◎史跡、神社、お寺等に、成り立ちや歴史の説明の看板等があると理解しやすいです ◎穂積地区の一寺が崩壊寸前である。美田を残したい ◎穂積地区から、歴史ある建物や神社、史跡、農業を取ったら何も残らない

(2) 地区の農業

◎高齢化している。食料自給率の低い日本で農業を守っていく、農業用機械関係も必須、販売方法も必要、イベント等で農作物の最新のものの季節ごとにアピールをどんどんしていくべきと、農業にかかわっていない方に知らせることも必要 ◎農地があれば困る(イノシシ・狸などが多くなる) ◎農家を辞めても土地改良の費用は支払う、改良後の農地を所有する限り賦課金を払い続ける疑問も残ります

(3) 互助活動とコミュニティ

◎今後、人口減少が進み、地域の人々の助け合いが大切。又、活性化、親睦が必要 ◎消防団の後継者不足 ◎自治会で2ヵ月に1回くらい、年齢に関係無く住民が集合して色々なテーマで座談会を実施してみたい。探せば色々な問題があるはずだ! ◎子どもたちのため、地区で祭りを開催して欲しい! ◎地域の助け合い精神の希薄に伴う消防団員等の減少 ◎コロナ禍及び高齢化、少子化により地域活動が無くなり、かつ自治会が活動を中止しているためますます地域活動が無くなっている ◎穂積公民館祭りが行われましたが、盛況でした

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・257
- 2 家族だんらんの時・・・241
- 3 趣味やスポーツに熱中している時・・・209
- 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・192
- 5 仕事に打ち込んでいる時・・・166
- 6 社会奉仕や社会活動をしている時・・・53
- 7 勉強や教養などに身を入れている時・・・38

その他13名、無記入24名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？
豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 心も体も健康でいられること・・・296
 - 2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・194
 - 3 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・167
 - 4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・150
 - 5 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・102
 - 6 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・87
 - 7 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・83
 - 8 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・59
 - 9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・37
 - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・17
 - 11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・14
 - 12 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・9
 - 13 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・6
 - 14 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・3
 - 15 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・1
- その他2 無記入20

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

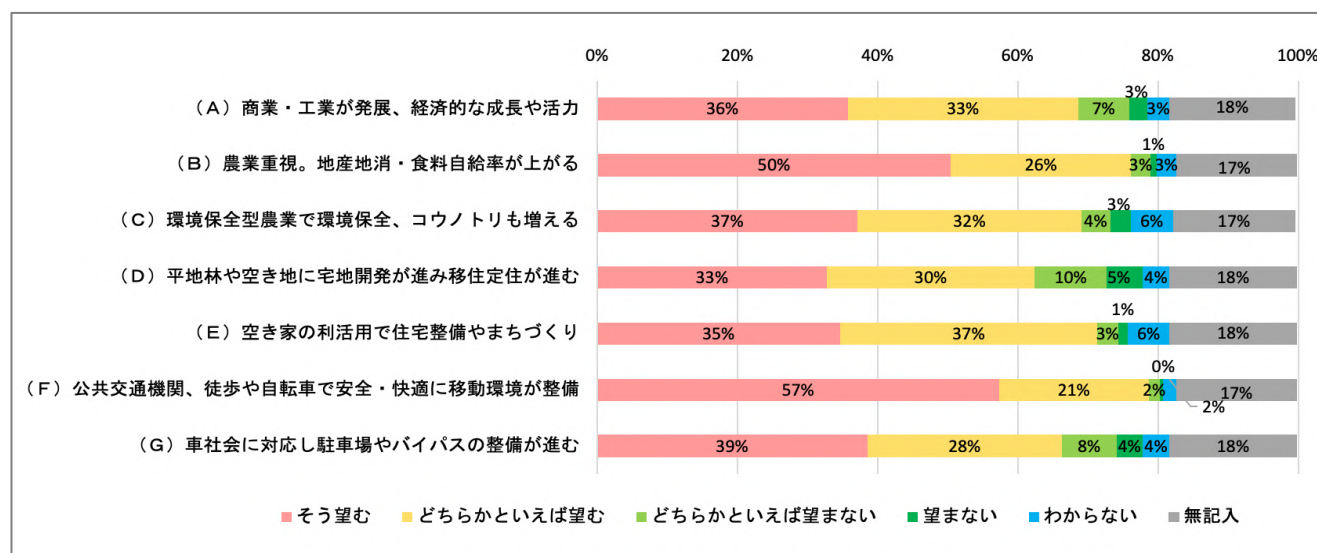
質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 20 年後、30 年後の望ましい小山市の都市環

境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略 * () 内の数字は「そう望む」の回答者の%

- 1 78% (57) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車です安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 76% (50) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 72% (35) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む
- 4 69% (37) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 4 69% (36) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 5 67% (39) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 6 63% (33) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」の割合が高い順

- 1 (F) 57%
公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で・・・
- 2 (B) 50%
地域の農業が大切にされ、地産地消が進み・・・
- 3 (G) 39%
車社会に対応して・・・

●「そう望まない」の割合が高い順（若干の差異）

- 1 (D) 5%
空き地や平地林に住宅開発・・・
- 2 (G) 4%
車社会に対応して、駐車場やバイパスの・・・

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

●結果の概観：穂積地区の特性

他の地区と同様に、上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶ結果となっている。穂積地区においては、設問【4】(解消したい困りごと)、設問【5】(大切に守りたいこと)の自由記述欄へのコメントは少なかったものの、今後の望ましい地域のあり方を訪ねた設問【7】の自由記述では、次に述べるように、109名の回答があった。その内容を細やかに把握していく必要がある。

7-3 自由記述の内容について

【7】は下記のように自由記述の欄も設けた。

(2)最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。＊例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。＊また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください。

109名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

本報告書では、別添の「アンケート集計結果報告書」にテーマごとに掲載した回答者のコメントからビジョンの考え方の根本に関するご意見を抜粋して、紹介する。

7-4 自由記述から一部を掲載

(1) 少子高齢化社会への不安

移動の問題

◎老後、車に乗らなくなると、全く外出できなくなるので、地区の中までバスが通るようにしてほしい ◎老人の車離れに対応できる小山市になってほしい ◎年齢ともに免許返納後、医者、買物に行きたい時、便利に人をたよりにしないで行けるようになると良いと思います ◎今、穂積地区に居住していますが今後年をとり、周りに買い物できる場所がないため、車で移動する事が困難に

なったらどう生活していけばよいのだろうと考えてしまいます ◎車がなくても老人が困らない街づくりを望む ◎高齢ドライバーの事故が度々ニュース等で流れます。車を使わないと、どこにも行けない交通の不便さを解消してほしいです。免許返納したら、月に数回の無料タクシーチケット交付やバス無料などの特典を付ける等、事故防止を考えてほしいです ◎車を使用せず生活できる環境に ◎高齢者の住みやすい都市。買い物にも徒歩で行ける範囲にお店がある環境を望む

高齢者に優しいまちに

◎高齢者に優しい街づくり、住みやすさ、愛着 ◎救急病院の拡大と充実。現在は救急車を呼んでもすぐに病院には行けない状態。救急病院にもかかわらず専門家の医者がいないということで受け入れできない事が多く、私の場合はその当日指定の病院は耳鼻科の先生がいないとか、来てもレントゲンをとれる医者がいないとかで受け入れ出来ないと断られる始末。救急指定の意味をなしていない。再度、指定病院を考える必要がある ◎高齢者が安心して生活でき若者も集まる、特に田園自然がゆたかで毎日の生活の衣食住に余裕があり安心して生活できる社会 ◎高齢者がくらししやすいまちづくりを望む ◎安心して介護で老後を過ごしたい。自宅で老々介護でゆっくり過ごしたい。豊かな自然の中でのんびり過ごしたい

人口減少と空き家の問題

◎空き家を改修し、地域で利用できるようにされたら！（高齢者のため、子供や子育てのため）高齢者になったら、車にのらなくても買い物ができる方法があれば…

(2) 地域コミュニティ

コミュニケーション

◎自然環境も大事ですが、人と人とのコミュニケーションがなされ近くの人を気にかけて、あたたかな日々を送れるような小山市であってほしい

◎人のつながり、地域のつながりを残していくような施策を大切にして欲しい ◎物の豊かさも大事ですが、心の豊かさを大切にする社会、コミュニケーションづくりが肝要に思う。コロナ禍以降、特に地域のコミュニティの希薄化は心配されます。各自治体ごとの主体的活動はもちろん大切ですが、市としても、このことを踏まえ、地域コミュニティのあり方等、今後方針等を明確にし、その充実に向けて歩を進めていっていただきたい

地域運営

◎20年、30年後の地域を想像すると。人口は減少し、世帯数も1/10程になり、穂積地区（現在9自治会）も1つの自治会で構成され基礎産業の稲作は、会社組織として続けられているものと思います。次世代の人々がどれだけ残りこの地区に住み続けるかが課題であると思う

(3) 子育て環境

◎定住する若い世代や移住者を増やすと共に、医療体制の充実、特に小児医療の充実を図らなければ、安心して小山市で暮らせない。今の小山市の医療体制では、子供を持つ親が不安であると思います ◎子どもの数が減り廃校に近い。送迎などの負担が多く、そのため家が有るのに便利な場所に移住する。若い人達、家族が子育てするのに最高、住みたいと思う地域になって欲しい。今の環境を守りながら…無駄なものを廃止し、若い人の意見を聞きながら！ ◎小山市だけではない問題ですが、適齢期をすぎた独身者がふえている現状で、今の1番の心配は、将来の人口減少。子供が少ないこと。将来が心配です。出会い、婚活の分野にもっと力を入れてもらいたい ◎若い人達が皆はなれて行ってしまふ、老人ばかり残って一人暮らしが多くなる。なんとか住みやすくなってほしいです ◎親子2世帯以上の生活が出来て子どもが増える、子どもの声がいつも聞こえる時代がほしいです ◎私たちの子どもの頃は、お祭りや地

域の行事が楽しみでしたが、今の子どもたち(孫)はそれほど関心があるのでしょうか。ゲームばかり夢中で、若い親たちも毎日の生活に忙しく、古い行事を後継していくのは大変なのかもしれません。それでも、子どもたちや年輩者がふれあうことができる何かがあると、残り少ない人生も楽しくなるのではと思います。また閉校した学校の再利用も早く何かに役立ててほしいです ◎子育てしやすい町づくり。子どもを産む施設、遊べる場所、子育て世代への店でのサービス、金銭面の補助、相談しやすい町づくり。小山市を子供の声でにぎやかにしたい！

(4) 農業について

◎農業、環境保全は他の市町村にまかせるべき。上記に予算をかけるのは、若者からの理解を得られないと思います ◎郊外の田園環境の保全ができるかは、水田農業経営が経済的に成り立っているのかどうか？にかかわってくると思う。そのために農地の集約を推し進めて欲しい ◎農業後継者不足は深刻であり、法人化の推進を図ると共に農振除外地区も見直して、農地を増やし転入者の促進に務める ◎イノシシ退治 ◎農地所有者にとって高齢化と農業離れが多い中、農地の有効な活用方法を 農地所有が難題にならないように ◎環境変化が著しい近年、食料は必需品なので災害があっても市民は守れる程自給率が上がるとよいかと ◎田園環境都市？田・畑が荒れては、美しいわけがない！農業を若者がやって生活できるだけの支援が必要 市道とか道の草刈りも農民がやっています ◎少子高齢化時代を迎え未来に不安が多い時代です。そして日本の食卓に危機が迫っています。食糧自給率はカロリー計算で37%くらいと言われています。安心して食べられる国内産を増加するため、農業後継者の育成を。世界各地で異常気象に減産が報道され政治と国民で考えたいです ◎田園環境が続く様に子どもたちに農

業について知ってもらおう田んぼの学校をずっと続けて欲しいと思います

(5) 田園環境と都市環境の調和について

自然環境保全

◎小山市は、思川があり、景観は良い利点である。土手を整備して、自転車や徒歩で思川沿いを散策出来るようにしてほしい。各種ポイントに、バスの停留所を配置したり、レンタル自転車を配置することで、まちおこしにつながるのではないかと考える ◎思川沿いにある桜と菜の花の季節は本当は素晴らしい。もう少し宣伝に力を入れた方がよいのではないかと 城山公園の木々(桜)を切ってしまったのは非常に残念。残す方法はあったのではないかと ◎太陽光発電施設やモータープール施設の増加による平地林等の自然が少なからず失われているのが残念である。思川左岸、市街地に面した河川段丘の保全を望む

田園環境と都市環境の調和・連携について

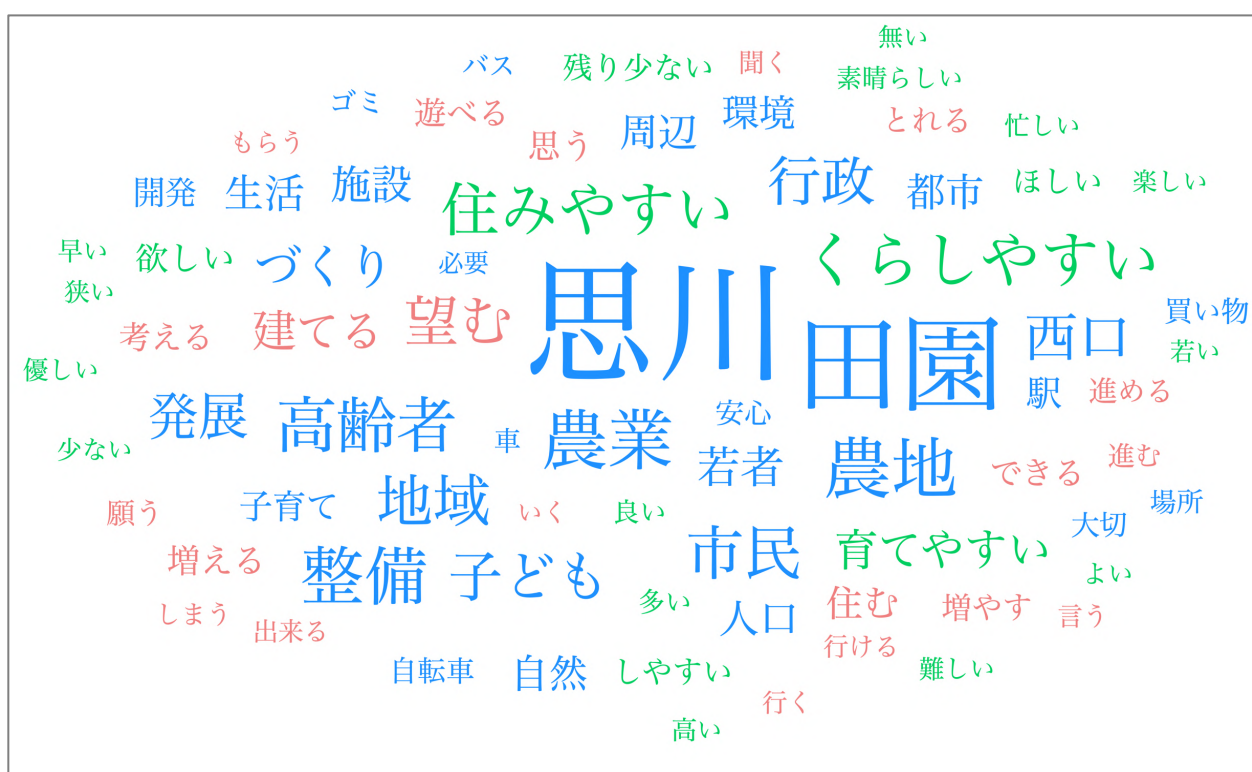
◎田園地帯の過疎化対策 ◎都市部(東京、他)への交通アクセスも良く、自然も近くに多く、生活の場としてはとても良いところ。駅前(西口)を、人が集まるように整備して下さい ◎商業工業の発展ばかりでなく、緑豊かな調和のとれた小山市。地域のゴミ拾いは良い事だと思う。以前、他県の人にこの辺は(穂積地区)ゴミも落ちてなくキレイと言われた事がある ◎工業と農業の両方が発展できる街づくり ◎思川を境にして駅周辺が商業地として、東は工業地、住宅地として西は農業地として農業の振興と環境保全を守るバランスのとれた環境都市を願望する ◎田園地帯にも若者・子育て世帯が家を持てる環境ができれば良いと思います ◎思川以西の有効活用。小山地区ばかりが整備されているような気がします。田園地域にも活力を!! ◎農・商・工のバランスのとれた小山市。自然は大切に保存していきたい。(開発ばかりが先行せずに！)

7-5 自由記述からの頻出キーワード

【7】の自由記述欄（30年後へのご意見）に寄せられたコメント全件で多用された言葉を、1つの参考として紹介する。

テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出で、基本的には、大きく表示されたものほど、語られた回数が多くなっている。ただし、「一般的な文書でよく使用される単語（思う。考える。私、など）は統計処理の際の重み付けを軽くし、一般的な文書ではあまり出現しないが調査対象の文書だけによく出現する特徴のある単語は重視する」という処理方式を行っている。

【7】自由記述 8620 字から抽出(※ユーザーローカル AI テキストマイニング <https://textmining.userlocal.jp/> によるキーワード抽出)



参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、穂積地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藺田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (1)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁

<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形・土壌

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第 13 集』小山市教育研究所、1971 年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治 13-19 年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013 年

https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyau/hozen/jiban_houkoku_25.html

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021 年

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyau/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

栃木県気候変動適応センター | とちぎの気候変動 今と未来、2022年

https://zerocarbon.pref.tochigi.lg.jp/wp-content/uploads/2023/02/1-2_%E3%81%A8%E3%81%A1%E3%81%8E%E3%81%AE%E6%B0%97%E5%80%99%E5%A4%89%E5%8B%95%E4%BB%8A%E3%81%A8%E6%9C%AA%E6%9D%A5.pdf

沖 大幹『水の未来 - グローバルリスクと日本』岩波書店、2016年

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007年

日本のレッドデータ検索システム

<http://jpnrdp.com/>

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24 (1)、応用生態工学会、2021年

風間健太郎「鳥類がもたらす生態系サービス: 概説」『日本鳥学会誌』64 (1)、2015年

鈴木由清「小山市におけるシギ・チドリの渡りについて」2024年

David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110.

<https://sora.unm.edu/index.php/node/121717>

WWF ジャパン

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html>

5 歴史

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年

『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年

高橋修、宇留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究－近世下野国の場合』大明堂、1977年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年

7 防災・減災

大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997年

小山市 | 小山市洪水・土砂ハザードマップ
<https://x.gd/Y6V5F>

栃木県「一級河川利根川水系巴波川圏域河川整備計画（第3回変更）」2021年
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/town/kasen/kaishu/documents/20210408111748.pdf>

8 遺跡

小山市教育委員会「小山市文化財保護調査年報14 平成19年度（2007年4月～2008年3月）」、2011年
https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1687420736_doc_6_0.pdf

9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

高木正敏「近世林野入会の成立——一七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』

4、小山市教育委員会市史編さん室、1982年、45-65頁

吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティブ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998年

鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田とEco-DRR」『農村計画学会誌』37(4)、2019年

小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモロコいの取組について <https://x.gd/BbL1r>

小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて
<https://x.gd/UGZZ0>

高橋朋子・鈴木睦美・福光健二「樹木による悪臭除去手術」『群馬畜試研報』1、群馬県畜産試験場、1994年

10 民俗

嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991年

11 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

小山市教育委員会「大川島神社鳥居説明サイン」2000年

山野井光枝（清水）「石塚の観音さまについて — 高橋山等覚院 観音寺」2024年

12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

13 穂積地区郷土誌

小山市教育委員会・文化振興課編「おやま百景ガイドブック

参考・引用文献

ク」小山市、1994 年、2004 年改訂

穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいと
こ再発見ガイド穂積」 2017 年

小山市立穂積小学校「学校の歴史」

[https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/17033003
17_doc_207_0.pdf](https://www.city.oyama.tochigi.jp/data/doc/1703300317_doc_207_0.pdf)

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
穂積地区

2024 年 12 月

小山市